



2 特集 研究者たち

6	News&Topics
8	未来の巨匠 辻 友里さん (大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 看護領域)
9	新任教職員紹介
10	研究室紹介
11	令和7年度入試結果/令和7年度学生在籍者数
12	校友会役員紹介/クラブ・サークル活動

13	新入生インタビュー
14	令和6年度 著書論文歴
20	令和6年度 学会発表
26	決算・予算・事業報告・事業計画
31	国際交流/Library/基本理念/教育目標/将来ビジョン
32	令和8年度 入試概要/熊本大夢基金/オープンキャンパス

「医療系」大学に分類される本学では、医学検査、看護、リハビリテーションの分野で、各教員がさまざまな研究にいそしむ。その成果が教育へとつながっていく。「研究」と「教育」の質は不可分な関係。研究者たちの真摯な姿勢が本学の高い教育の質の基になっている。

世界が注目、MRSA のゲノム解析 衰えぬ探求心 遺伝子レベルで菌を知る

医学検査学科
黒田 誠 教授

院内感染の代表的な原因菌、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)。順天堂大学医学部 (細菌学教室) で助手を務めていた2001年、2600遺伝子にも及ぶMRSAのゲノム (遺伝子全情報) 解析を行い、世界的に評価の高い医学雑誌The Lancetで成果を公表した。その論文は現在も国内外の研究者に引用され続け、引用回数は1万回を超える。

その後、解析の手腕を買われて移った国立感染症研究所では病原体ゲノム解析センターに所属。17年間にわたり「ありとあらゆる」(黒田教授) 病原体の解析に従事し、「病原体にも生きる権利があるんだ」と思うってしまうほど研究に没頭してきた。

世界的に猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着きを見せた2024年4月、本学に赴任。2万9000塩基に上る遺伝子配列のうち1カ所が2週間に1回変異するという「曲者、コロナを相手に「燃え尽きた」と語る一方で、新天地を「管理職ではなく一研究者に戻って自身の能力を取り戻す新たな人生のステージ」ととらえている。

目下、指導する学生たちと共に、大学周辺の河川に存在する耐性大腸菌の解析にいそしむ。教育を兼ねた取り組みだ。また、本学の生物毒素・抗毒素共同研究講座 (高橋元秀特命教授) が手掛ける破傷風菌にも、遺伝子情報という観点からアプローチしている。「そもそも、破傷風菌はなぜ毒素を持ったのか」。探究心に衰えはない。



精神障害をもつ人の地域定着目指し「離島モデル、 「その人らしく生きる」を支える

看護学科
久松 美佐子 准教授

鹿児島大学助教などを経て2022年より本学准教授。この10年は鹿児島県の離島をフィールドに、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に携わっている。

社会資源に限られる離島では、精神障害をもつ人が社会に適応し、自律的に生活していくことは、本土に比べて困難が伴う。入院できる医療施設も少なく、たとえ退院したとしても、その後のケアは手薄になりがちだ。再入院というケースも少なくない。

そこで、久松准教授が目付けたのが離島ならではの「地域のつながりの強さ」だった。医療施設が月1、2回行う精神科訪問看護への同行を手始めに、患者、家族、行政等への聞き取りやアンケートを継続的に行ってきた。また、都市部、へき地、離島の3地域で、精神障害をもつ人の生活に影響を与える要因を調査し、地域特性による影響の有無を明らかにしてきた。

その結果、構想したのが、精神障害をもつ人を中心に医療機関と行政に住民を有機的に組み込んだ多職種連携のケアシステムだ。「離島モデル」として、一部の離島では実践中。「この研究によって、離島だけでなく、精神科病院の所在地との物理的距離のあるへき地など、遠隔地で限られた社会資源の基盤をもつ地域での支援に貢献していきたい」と意気込む。

鹿児島市出身。地元の看護専門学校を経て市内の病院で看護師としてスタートした。しかし、キャリアを中断し夫の母、実父、夫と立て続けに看取った経験から、「家族の立場から看護を考えたい」と研究の道へ。二十数年前のことだ。大切な人を失った家族に対

するグリーフ (悲嘆) ケアは、久松准教授のもうひとつの大きな研究テーマとなっている。

精神障害をもつ人に対する地域包括ケアシステムの構築とグリーフケアという異なる研究に通底するのは「大切なのは、その人らしく生きること」との強い思い。久松准教授を日々の研究や後進の指導へと向かわせる原動力となっている。



歩行障害のメカニズムを「見える化」 リハビリ目標共有への活用目指す

リハビリテーション学科理学療法学専攻
本田 啓太 講師

バイオメカニクスの手法を取り入れ、脳卒中患者に見られる歩行障害のメカニズム解明に取り組む。歩く速度、歩き方(歩容)などを「見える化(数値化)」し、それらの関係を明らかにすることで、臨床での活用を目指している。

本学リハビリテーション学科理学療法学専攻から大学院を経て、東北大学病院に理学療法士として勤務。その間、同大学大学院で博士号を取得し、2022年に本学に「里帰り」した。東北大時代は、麻痺していない側の足の「かばう動き」が歩行姿勢の不安定さにつながっているという転倒のメカニズムを解明。人体のフォーム解析による研究成果は国際学術誌Journal of Biomechanicsに掲載され、高い評価を受けた。本学着任後は、大学院生と共同し、歩行の様子をカメラ1台で簡単に測定する手法の現場実装に挑戦。臨床での活用之道を開いた。

麻痺の程度に応じた歩き方の数値化や指標づくりは、「臨床現場でリハビリ目標の共有に使えます」と本田講師。麻痺していない足側に頼った歩き方にするか、それとも健常者と同様の歩き方を目指すかというリハビリ目標の設定は、臨床の現場でも悩ましいところ。本田講師は「セラピストの経験に頼むところが大きく、科学的ではありません」と言い切る。「見える化」のためにはデータの蓄積が欠かせない。地道な作業だが、「やりたいことを仕事にしているから、むしろ楽しい」と笑顔で話してくれた。



日本版コミュニティー・シェッド設立 高齢者の社会的孤立防止に効果

リハビリテーション学科作業療法学専攻
松尾 崇史 准教授

2023年11月、熊本県南の山間部に位置する水上村で、高齢男性の社会的孤立や孤独を防ぐ試みとして日本版コミュニティー・シェッド「寄郎屋(よろうや)」を研究仲間と共に立ち上げた。中心メンバーとして発足1年前から村民への聞き取り調査や村との折衝などに奔走。発足後は週1回の例会に駆け付け、会員たちに寄り添う。

コミュニティー・シェッドとは、地域住民が自主的かつ自由な発想で運営する実用的で社会参加型の組織。寄郎屋は、「皆で集まって楽しく遊ぶ場をつくりませんか」との呼び掛けに6人の住民が応じてスタート。現在、会員は16人まで増えた。竹炭づくり、木工、そば打ちなど多彩な「大人だからできる遊び」を続ける中で、アルコール摂取量の減少、認知機能の向上、コミュニティーネットワークの増加など、確実に効果が見られるという。

前任の西九州大学時代から、高次脳機能障害のひとつで主に左半側空間の注意力が低下する左半側空間無視をテーマに効果的なリハビリ法の研究を続けてきた。コミュニティー・シェッドは、2021年に本学に着任後、学外の若手研究者で結成した勉強会メンバーと意気投合したことが出発点。全くの専門外ということもあり、「当初は決して意に添う取り組みではなかった」と明かす。

しかし、地域に入り込み、寄郎屋メンバーに明らかな変化が見ら

れるようになると、「研究者として何が社会から求められているか、ということを考えるようになった」。近く、同村内でもうひとつのコミュニティー・シェッドが立ち上がる予定だ。「やりたいことを突っ走った30代から、求められる40代へ」と口にして飛び回る43歳。まだ当分は席を温める暇もない日々が続くそうだ。



障がい児のコミュニケーションを支援 良き人生へ「子どもの可能性広げたい」

リハビリテーション学科言語聴覚学専攻
井崎 基博 教授

自閉症児のコミュニケーション支援が研究テーマ。「どんな声掛けが子どもの発達に効果があるか」ということを調べるため、相談・治療にやってくる親子に、遊びの要素の高い、例えば小さなスクリーンを使ったお絵かきなどを協働でやってもらい、そこで交わされる親子間の会話を分析するという取り組みを続けている。

そこで見てきたのは、『お母さんはこう思うけど』みたいに、ポジティブに考えを述べる親ほど、子どもにも良い変化をもたらすことができる」ということ。こうした成果を積み重ねながら、個々のケースごとに効果的と思われる治療法を模索。さらには、子ども本人に対する診断名告知の在り方はどうあるべきかということにまで考えをめぐらす。

2018年に愛知淑徳大(講師)から本学に着任してからは、吃音治療も研究テーマに加わった。きっかけは、同じ年に開設された「ことばの相談室」。自閉症児を想定していたのだが、「ふたを開けてみると吃音の人の相談の方が多く、勉強し直すことになりました」。吃音治療に関しては、新型コロナウイルスが猛威を振るった時期、オンライン指導を試みた。その実践と効果は研究者の間でも反響を呼んだという。このため、コロナの5類移行後も遠隔地の子どもたちを対象にオンライン指導は継続している。

大阪市出身。大学卒業後、3年間の会社勤めの後に志した言語

聴覚士の世界だった。「障がいのある子どもたちに早い段階からかわり、その子の人生の可能性を広げてあげたい」。20代で抱いたその思いは、50代を前にした今も揺るぎない。温かみのある関西弁と柔和な笑顔が、訪れる親子に安心感を与えている。



「生物毒素・抗毒素」「品質保証・精度管理学」 化血研と2つの共同研究講座

熊保大と一般財団法人化学及血清療法研究所(化血研)の共同研究の場として、2019年10月1日に「生物毒素・抗毒素共同研究講座」が、2020年10月1日には「品質保証・精度管理学共同研究講座」が開設された。

熊保大の前身である銀杏学園短期大学(旧衛生検査技師養成所)は医療技術者を育成する地域の学び舎であった。熊保大は創設当初から化血研と不可分な関係にあり、両者は教育・研究・地域支援において多面的に連携する協働体である。化血研から医薬品及び動物薬の製造販売事業等を譲渡されたKMバイオロジクスでは生物学的製剤の製造と品質管理の業務を担っており、両講座はその業務を支援する目的で設立されたものでもある。

生物毒素・抗毒素共同研究講座の研究課題は、主に毒素産生細菌の感染症として破傷風菌、ジフテリア菌の疫学調査、予防と治療、および実験室診断の基礎・応用研究である。県内病院から破傷風やジフテリア

類似菌の感染患者の情報提供を受け、講座では開発した迅速検査法を活用して、医療現場に貢献する技術と知識を提供する協働体制が築かれている。

品質保証・精度管理学共同研究講座では、主に医薬品の製造における品質や信頼性の保証をテーマとして、不正製造防止や

安定供給体制確保の側面から、東京理科大学薬学部や製薬関連各学会等のアカデミアや、厚労省、PMDA等の行政機関、業界団体等との産官学にわたる連携体制を構築し、研究を進めている。



「特集 研究者たち」に寄せて

「研究」を行うことは、アカデミアの中心に位置する大学にとって重要なミッションの一つです。本学では「優れた医療技術者の養成を通じて社会に貢献すること」を建学の精神に掲げていますが、日々進歩する医学・医療領域の人材育成にあたっては、「教育」のみならず、最新の知識を導入しつつ自ら「研究」を行うことが重要だと常々考えています。学生は教員の背中を見ながら育ちます。学生の中にも卒業研究でリサーチマインドに目覚め、大学院へ進学する若者が増えているのは大変嬉しいことです。本学では、同規模の大学に比べると動物実験施設や種々の最新研究機器が備わり、先端研究が可能な環境が整っています。私の学長着任後には、二つの共同研究講座や健康・スポーツ教育研究センターの設置など研究に関わる組織も充実してきました。

本学では科研費等の競争的外部資金獲得のための原動力として、教育研究プログラム・拠点研究プロジェクト(P & P)によって個人あるいはグループ研究を支援していますが、私の着任以降の状況を見ると、その成果が着実に現れています。日本私立大学協会が発行する「教育学術新聞」では毎年全国の私立大学への科研費配分額一覧が掲載されますが、令和7年度配分額(新規+継続)では596大学(1件以上の採択があった私立大学数)中、本学は167位(30件、総額4,641万円)でした。因みに令和6年度は590大学中200位(25件、3,094万円)でしたので、件数、配分額とも順調に伸びており、令和6年度は採択件数および配分額とも過去最高となりました。本学は教員数では小規模校に属するので、それを考慮すると良く健闘していると思います。



理事長・学長
竹屋 元裕

本特集では、精力的に研究を推進されている5人の先生方にフォーカスをあて、最新の研究内容を紹介しています。この特集が「研究」へのモチベーションアップに繋がることを願っています。

地域とアスリートに寄り添う 健康・スポーツ教育研究センター

健康・スポーツ教育研究センターでは、地域に根ざした健康づくりからトップアスリートの支援まで、幅広い研究と実践活動を行っている。世代や分野を超えた連携を通じて、地域社会の健康推進とスポーツの価値向上に貢献している。

阿蘇市を舞台に3年目を迎えた「阿蘇プロジェクト」では、高校生・大学生が協働し、65歳以上の地域住民の健康維持を図る。運動・休養・社会参加に関する取り組みを通じて、参加者の握力や舌圧の向上、健康意識の変化が見られた。

また、学生の主体的な関わりが、世代間交流や地域活性化の促進にもつながっている。さらに、介護予防事業へのボランティア参加が、理学療法・作業療法を学ぶ学生たちの専門的理解と将来設計にポジティブな影響を与えていることも明らかとなり、教育と地域貢献の好循環が生まれている。

スポーツ領域では、実業団アスリートや中高生アスリートの障害予防とパフォーマンス

向上を目指した研究が進む。

例えば、膝に既往を持つ女性アスリートを対象に、着地時のバランスや筋力の計測を通じて、健側膝関節の機能的役割に注目した研究を展開。また、高圧酸素ルームへの滞在がジュニアアスリートの疲労回復におよぼす影響についても検証を行っている。

これらの研究成果を鶴屋女子バスケットボール部やハンドボールの熊本ビューストピンディーズといった地元チームにフィードバックするなどして、アスリートの安全で持続的な成長をサポートしている。

さらに、センターではパラスポーツ領域にも積極的に取り組む。車いす陸上競技においては、「漕ぎ力」の測定装置を開発し、選手の動作を定量的に分析できる環境を整備した。また、競技用車いすのスピード変化における走法の切り替えタイミングを解析する研究を通じて、戦略的なトレーニング提案につなげている。

センターの研究は、単なるデータ収集にとどまらず、教育・実践・地域連携が一体となった「生きた研究」。今後も、科学的知見と現場感覚を融合させ、地域の健康とスポーツ文化の発展に貢献していく。



News & Topics

希望胸に 過去最多494人入学 令和7年度入学式

令和7年度入学式が令和7年4月2日(水)、熊本市中央区の市民会館シアーズホーム夢ホールで行なわれ、本年度開講した公衆衛生看護学専攻科の第1期生となる20人を含め、過去最多の計494人が入学しました。

式典では、竹屋元裕学長が学部学科、大学院、別科・専攻科ごとに入学許可宣言。引き続き、「これからの超高齢社会では、医療のあり方も『治す医療』から『治し、支える医療』へと変化する必要がある、臨床検査技師・看護師・保健師やリハビリテーション・セラピストの果たす役割がますます重要となっています。皆さんの一人一人が人生100年時代を支える主役。時代の流れを的確に見据えて、高齢社会を支える医療人を目指していただきたい」と式辞を述べました。熊本市北区の吉住和征区長の来賓あいさつに続き、新入生代表の柊島百華さん(医学検査学科)が「医療に携わる人間として、的確な判断能力と高い倫理観を培い、学識を深め、人格の形成に精進します」と宣誓文を読み上げました。



令和6年度卒業式・修了式 誇りを胸に347人 巣立ちの春

令和6年度卒業式・修了式が令和7年3月14日(金)、熊本市中央区のシアーズホーム夢ホールで行なわれ、学部、大学院、助産別科の計347人が慣れ親しんだ学び舎や恩師に別れを告げ、社会に巣立ちました。

式典では、国歌斉唱に続き、竹屋元裕学長が学科・専攻、研究科、別科の各代表に次々と学位記・修了証書を授与。成績優秀者、酒匂賞受賞者などを表彰。その後、式辞に立った竹屋学長は、冒頭、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが続いていた4年前の入学式を振り返り、「皆さんは新型コロナウイルスとの闘いに勝利した。感染症への対応という貴重な経験は、医療人としての将来にとって、かけがえのない財産となるはず」と語りました。また、「不安定で不確実な時代」「人生100年時代」を生き抜く医療人の一人として、しっかりと前を見据えて人生の歩みを進めるとともに、「生涯にわたり自己研鑽に努め、最新の知識・技術を身につけることが大切」と語り掛けました。最後に「熊本保健科学大学を卒業したという誇りを持って、大きく社会に羽ばたいていけることを心から祈念します」と締めました。

卒業生代表の山下光さん(医学検査学科)は、「大学で過ごした日々は自分自身の人生にとってかけがえのない時間。大学生活で培ったことを忘れず、熊本保健科学大学卒業生としての誇りを持ち、広く社会に貢献していきたい」と述べました。



入試・広報課 公式Instagramを開始

この度、大学広報の一環として、入試・広報課 公式Instagramを立ち上げました。オープンキャンパスなどのイベント情報や入試情報に加え、大学の日常などを配信していきます。ぜひ、本学ホームページ、もしくは右のQRコードよりフォローをお願いいたします。



Lovers前部長 前田さんに学部長表彰

難病患者やその家族への支援活動に取り組むボランティアサークル「Lovers～難病患者・家族を支える会」前部長の医学検査学科3年前田茉穂さん＝写真中央＝が令和7年



1月21日(火)、学部長表彰(社会活動賞)を受けました。
部長に就任したのは内閣府特命大臣表彰を受けたのを機に部員数が急増していた時期だったため、前田さんはクラブ活動のかじ取りに腐心してきました。折しも、コロナ禍が収まり始めた時期とも重なり、患者家族会をはじめとした外部からの支援活動再開の要請にも積極的に対応。一度途切れた慰問演奏も自ら後輩を指導し再開させるなど、ボランティア活動が円滑に進むよう尽力してきました。

ユニバーシティ・ビジョンお目見え 天気やニュース、広告を放映

大型ビジョンでさまざまな情報や広告を掲示するユニバーシティ・ビジョン(デジタル・サイネージ)が、レストラン「ピリア」に設置されました。令和7年2月3日(月)から稼働しています。今回設置されたビジョンでは、学内情報、天気、ニュースに加え、学生の就職先に関連した広告が放映されています。また、大学に支払われる放映料はレストランの健康食補助事業に充てられ、学生たちの健康づくりにも役立てられています。



爽やかな汗流したら…血圧測定、健康体操 西里校区健康ウォーキング

第6回西里校区健康ウォーキングが令和7年3月2日(日)に開催されました。

スタートの前後には、看護学科の岡順子教授、戸渡洋子准教授の指導の下、看護学科学生14人が参加者の血圧を測定。リハビリテーション学科作業療法学専攻の宮田浩紀講師による健康体操の指導もありました。その他、周辺地域にまつわるクイズや、ウォーキング後の賞品抽選会も実施され、幅広い世代の人たちが楽しんでいました。



JSPO-AT養成校に認定 理学療法士との併修 九州の大学では初

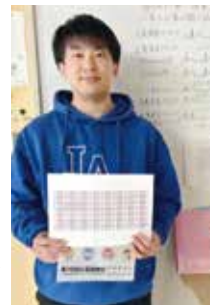
令和7年度よりJSPO-AT(日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)養成校として承認されました。理学療法専攻での4年の間に理学療法士とJSPO-ATの受験資格が得られる養成校は、全国3番目、九州では初となります。

JSPO-ATはトレーナー資格の中で日本最高峰に位置し、プロチームや実業団などに属するトレーナーが有している代表的な資格です。本学では、ケガや故障した選手を医療現場でサポートするだけでなく、その後の競技力向上を目指したトレーニング指導など、幅広く対応できる人材を育成することができます。



前迫さん快挙 最難関の心電図検定1級合格

令和6年12月に実施された第10回心電図検定で、医学検査学科4年(当時)の前迫雅文さんが見事1級に合格しました。1級合格者は、循環器専門医や心電図に深く精通したメディカルプロフェッショナルとみなされ、実際に病院で働いている検査技師でも合格のためにはかなりの勉強量が必要とされます。このため、基本的な心電図所見だけでなく、患者さんの状態や疾患・病態から起こり得る変化についての知識も深くないと合格できません。前迫さんは、授業や国家試験対策もある中で快挙を成し遂げました。



入学前サポートQ&Aセッション 入学予定者 優しく支える

総合型選抜や学校推薦型選抜の合格者を対象にした「入学前サポートQ&Aセッション」が令和7年2月13日(木)、オンラインで行われました。

入学後のイメージをより明確にし、早めに準備を進めてもらおうと昨年から始まったもので、入学予定者が抱える疑問や不安を、リモートで在学学生たちに相談することができます。

在学生たちは、時折笑顔を見せながらテストや実習についての不安、髪色やピアスなど身だしなみに関する疑問など幅広い質問に答えていました。



苦勞乗り越え充実の巣立ち 令和6年度キャリア教育研修センター修了式

令和6年度キャリア教育研修センターの修了式が令和7年3月21日(金)に開催されました。キャリア教育研修センターの川口辰哉センター長が全員に修了証書を授与し、祝辞を述べました。川口センター長は1年間を振り返り「前半はe-ラーニング、後半は対面授業と臨地実習で大変なうえに、簡単ではなかったと思う。それを乗り越え、新たな道を切り開く準備が整った」と語り、「本学で出会った皆さんとの一期一会を大切に、これからも励まし合って旧交を温め、困ったことがあったら本学に相談しに来てほしい」と締めました。



世界に羽ばたけ!

未来の巨匠

Vol. 5

辻 友里さん

2024年度 保健科学専攻看護領域入学

大学院での学びを生かして「寄り添った支援」へ 目指すは“誰もが気軽に立ち寄れる心と身体の安全基地”

母の存在とお世話になった先生方の影響で志した「保健師」

母が長年病院で管理栄養士として働いていたこともあり、幼いころから「手に職を持つことの大切さ」を教えられ、その姿勢は私の進路選択にも大きな影響を与えました。

高校生時代、心の拠り所が見つからず生きづらさを感じ、心身の苦しさに悩んだ時に、ただ静かに寄り添ってくれた保健室の先生と出会えたこと、また大学時代に実習先でお世話になった保健師の方から評価していただいたことも、保健師を目指すきっかけとなりました。

価値観に寄り添った支援をするために自分のスキルアップを

本学看護学科を卒業後、保健師として働く中で理想としたのは「心身に悩みを抱える人に寄り添い、安心して相談できる存在」。誰にも頼れないと感じる人はもちろんのこと、心身の不調を予防できるような支援ができるよう、日々努めています。しかし、時折自分の考えが先立ってしまい、指導的な言動になってしまうことも。目指していた保健師像に近づくためにも「自分をスキルアップさせることが、支援する人への理解を深め、今以上に寄り添った支援ができる」と考え、大学院への入学を決意しました。本学を選ぶ決め手となったのは、大学院のモットーである「生命」「健康」「暮らし」を守り支える支援を探究する姿勢が私の理想と一致していたこと、そして「人」に寄り添った支援を実践されている、恩師 竹熊先生が在籍されていたことでした。大学時代は追われるだけの勉学でしたが、今は自ら探究して学んでいくことに楽しさを感じています。

目指しているのは「誰もが気軽に立ち寄れる心と身体の安全基地」

大学院入学後は、昼間は全国健康保険協会で保健師として勤務し、夕方は大学院で講義を受けたり、研究活動に取り組んだりしています。今後も、博士課程を視野に入れながら学びを続け、それと同時に“誰もが気軽に立ち寄れる心と身体の安全基地”のような「街なか保健室」を開くことを目指しています。まずは自分の知識やスキルを伸ばすことが必要ですので、在学中にできるだけ多くのことを学びたいと思っています。

頑張る原動力は皆さんとのコミュニケーション

共に働く皆さんとのコミュニケーションや諸先輩方との関わりは私にとって、スキルや知識を高められるだけでなく、頑張ろうと思わせてもらえるかけがえのない存在です。また、現在ご教授いただいている前田先生、そして大学院に入学して出会った皆さんの存在も私の学びの糧となっています。

時には頑張り過ぎて行き詰まることもあります。そんな時はこれまで関わってきた方が「話せてよかった」「その後、頑張っているよ」と笑顔になってくださった姿を思い出します。するとこれからも誰かの力になれるように頑張ろうという意欲が湧いてくるんです。リフレッシュも大切!好きな映画を観たり、好きな音楽を聞きながら掃除をしたりと、頭の中をリセットさせています。



学ぶことをいつまでも
忘れずにいてください。
「なぜ」「どうして」と疑問
に思うことはとても大切です。

探究心を持ち続け、学
ぶことを、いくつになっても
続けてください。



全国健康保険協会では特定保健指導や健康相談、重症化予防対策などを行っています



職場の方と加入事業所様の健康づくり対策に向けたミーティング

新任教職員紹介

ようこそ、熊本保健科学大学へ

医学検査学科



教授
松村 剛

もともと熊本生まれの熊本育ちで、長らく熊本大学代謝内科学講座にて主に糖尿病・内分泌・脂質代謝に関する教育・臨床・研究に携わってまいりました。これまでの大学教員としての経験を活かし、本学のさらなる発展に尽力したいと思ひます。

医学検査学科

教務嘱託
山口 有紗

4月に医学検査学科教務嘱託職員として入職いたしました。
学生の皆さんと接する中で改めて学ぶことも多くあり、日々成長させていただいています。
未熟な部分も多くご迷惑をお掛けすることもあると思ひますが精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

看護学科



助教
磯野 さよ子

本年度より看護学科成人看護学慢性期領域に着任いたしました。これまで、病棟・透析施設・地域の保健センターなどで看護師として勤務しておりました。この経験を活かし、教育や研究に尽力したいと思ひています。どうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション学科 作業療法学専攻



教務嘱託
壺岐尾 優太

本年4月より作業療法学専攻に着任いたしました。末梢神経障害や認知機能障害を中心に、がん患者の有害事象に対する非薬物的介入の効果に関する研究に取り組んでおります。本学での研究および教育に尽力したいと思ひておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

公衆衛生看護学専攻科



特任教授
鳩野 洋子

九州大学を退職後、公衆衛生看護学専攻科に特任教授として着任させていただきました。少子高齢化を背景として、保健師養成のニーズが高まっています。人々の健康を守ることに真摯に向き合える保健師育成のお手伝いができればと考えております。

助産別科

特任助教
小田原 由香里

助産院を開業しており、乳幼児訪問や産後ケア・性教育などを行っており、本学には週2回の勤務で演習や実習を担当しております。母子と家族に寄り添って、助産が大好きと言える助産師の育成に尽力させていただきたいと思ひます。

アカデミックスキル 支援センター



特任教授
渡邊 元生

「アカデミックスキル」科目と、週刊NEWSLETTERおよび「ぎんきょう」の編集に携わっています。新聞社での経験をフルに生かせる場を得て感謝しています。ライティング指導を通じ学生の「考える」力を伸ばすとともに、本学の魅力を学内外に伝えていきたいと思ひます。

生物毒素・ 抗毒素共同研究講座



特命助教
志多田 千恵

昨年10月より着任いたしました。現在は破傷風菌に関する研究を行っており、今後基礎から応用まで幅広く取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

事務職員



緒方 孝輔

昨年9月に入職し、主に進学ガイダンスと高校訪問を担当しています。以前、予備校に勤務していた際も同様の仕事をしており、不安はありません。止まらぬ少子化に立ち向かう大学の広報役を愚直にこなしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務職員



正原 那紗

本年1月より入試・広報課に入職いたしました。主に、Instagramの運用や広報誌を担当しています。
前職は放送局で勤務していたので、これまでの経験を活かし、本学の魅力をできるだけ多くの方に伝えられるよう尽力いたします。未熟ではありますが、よろしくお願いいたします。

事務職員



村上 奈緒子

4月より事務職員として入職いたしました。前職は就労支援施設の事務局職員として勤務しておりました。
学生の皆さんが本学での学びや経験をもって社会で活躍するために、就職支援で貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

学校法人銀杏学園理事・監事・評議員一覧

(2025年6月18日時点)

理 事 長	竹屋 元裕	学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 理事長・学長	監 事	安高 純一郎	熊本保健科学大学 常勤監事	評 議 員	池田 夕希	助産別科同窓会 会長
理 事	楢原 真二	熊本保健科学大学 副学長		林田 喜一	税理士		園田 寛	熊本市医師会 会長
	川口 辰哉	熊本保健科学大学 副学長	評 議 員	多久島 寛孝	熊本保健科学大学 保健科学部長		本 尚美	熊本県看護協会 会長
	古閑 陽一	熊本保健科学大学 特命副学長		上仲 一義	熊本保健科学大学 医学検査学科長		米満 弘一郎	医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理事長
	前田 ひとみ	熊本保健科学大学 大学院保健科学研究科長		田中 聡	熊本保健科学大学 リハビリテーション学科長		平井 俊範	熊本大学病院 病院長
	福田 稠	熊本県医師会 会長		河瀬 晴夫	熊本保健科学大学 事務局長		松下 修三	熊本大学ヒトレトロウイルス学 共同研究センター 特任教授
副島 秀久		社会福祉法人恩賜財団 済生会支部熊本県済生会 支部長		勝木 康子	熊本保健科学大学 事務局次長		樹田 浩	一般財団法人化学及 血清療法研究所 副理事長
馬場 秀夫		一般財団法人化学及 血清療法研究所 理事長		原田 精一	医学検査学科同窓会 会長		町田 二郎	くまもと南部広域病院 病院長
高橋 洋匡		KMバイオロジクス株式会社 代表取締役社長		高橋 知恵美	看護学科同窓会 会長		馬場 啓	学校法人銀杏学園 顧問弁護士
高橋 毅		国立病院機構熊本医療センター 名誉院長		平尾 章悟	リハビリテーション学科同窓会 会長		毛利 浩一	株式会社フードパル熊本 代表取締役

研究室紹介

Laboratory Report



研究テーマ

「公衆衛生看護管理論」/「保健医療福祉行政論」

公衆衛生看護学専攻科 専攻科長

岡 順子 教授

急激な少子高齢化の進展、様々な分野のIT化など「時代の転換点」ともいえる社会構造の変化によって、保健・医療・福祉を取り巻く現状が変動する中、人々が抱える健康課題は複雑・多様化しています。

また、未知の感染症への対応や大規模自然災害の被災者支援など、健康危機管理への対策も喫緊の課題です。このような社会的なニーズへの中心的な役割を担う職種として保健師への期待は高まっています。公衆衛生看護を担う保健師の多くが行政機関に従事しており、諸課題に対して、住民を主体とする施策化や新たなシステムの開発が求められています。そのため、現状や将来予測される事柄をアセスメントし、その結果を踏まえた政策立案の応用能力や実践力向上を探索していきます。

一方、行政資源が限られている中、財源や人材の育成、住民や関係機関との協働や連携など、マネジメントの在り方も重要です。また、地域の健康を守る保健師には、高度な専門性に加え、人々が抱える様々な問題に心を寄せる創造性や感受性、倫理的な配慮ができる豊かな人間性が求められています。

新設した公衆衛生看護学専攻科では、実践に必要な知識・理論の理解、仲間との討議による政策形成過程の実践など、幅広い学びを通じて次代を担う保健師像を考えていきます。



研究テーマ

「公衆衛生看護学:健康の公平に向かう保健師によるアプローチ」

公衆衛生看護学専攻科

戸渡 洋子 准教授

世界保健機関(WHO)が提唱するヘルス・フォー・オール(すべての人々に健康を)の意味するところは、すべての人が健康な生活を享受する社会の実現です。そのためには、治療・投薬のような医学的な活動の実践と同時に、人々が健康をまもるスキルを身につけることや、健康な生活をおくることのできる社会環境をつくり出すことを支援する「公衆衛生看護」を担う「保健師」の活動が重要な意味を持ちます。

また、健康は基本的人権のひとつであり、人々が豊かな生命・生活・人生を実現するための重要な資源でもあります。健康の問題は「いのち」そのものの問題と言えるでしょう。しかし、海外のみならず日本においても、健康の格差—すなわち、不公平で回避可能な健康の不平等—が生じており、その拡大が進んでいる現状があります。

そこで、私は、これまでの保健師経験を糧としつつ、「健康の公平に向かう公衆衛生看護アプローチのあり方」をテーマに研究を行っています。健康施策の最前線で活動されている保健師の皆様や専攻科学生とともにこれらの研究に取り組み、「すべての人々の健康とQOL(Quality of Life: 生命・生活・人生の質)の向上」に貢献していきたいと考えています。



令和7年度 入試結果

学科	入試区分			募集人員	志願者	区分	合格者	入学者	志願倍率	実質倍率	
医学検査学科	総合型選抜	エントリー		5	22		15				
		出願 ※1			14 (13)	タイプ A タイプ B	5 6	5 6	2.8 —	2.8 —	
	学校推薦型選抜（指定校）			20	23		23	23	—	—	
	学校推薦型選抜（公募）			25	34		30	30	1.4	1.1	
	一般選抜			40	121		97	44	3.0	1.2	
	共通テスト利用（前期）			5	100		75	9	20.0	1.3	
	共通テスト利用（後期）			5	7		6	4	1.4	1.2	
	学科合計			100	299		242	121	3.0	1.2	
看護学科	総合型選抜	エントリー		5	31		17				
		出願 ※1			17 (16)	タイプ A タイプ B	5 5	5 5	3.4 —	3.4 —	
	学校推薦型選抜（指定校）			15	19		19	19	—	—	
	学校推薦型選抜（公募）			30	64		38	38	2.1	1.7	
	一般選抜			40	150		106	64	3.8	1.4	
	共通テスト利用（前期）			5	117		60	7	23.4	2.0	
	共通テスト利用（後期）			5	2		2	0	0.4	1.0	
	学科合計			100	369		235	138	3.7	1.6	
リハビリテーション学科	理学療法専攻	総合型選抜	エントリー		4	21		15			
			出願 ※1			14 (13)	タイプ A タイプ B	4 4	4 4	3.5 —	3.5 —
		学校推薦型選抜（指定校）			12	10		10	10	—	—
		学校推薦型選抜（公募）			14	32		24	24	2.3	1.3
		一般選抜			23	69		44	22	3.0	1.6
		共通テスト利用（前期）			4	52		20	1	13.0	2.6
		共通テスト利用（後期）			3	1		0	0	0.3	—
		特別選抜（社会人）			若干名	0		0	0	—	—
	専攻合計			60	178		106	65	3.0	1.7	
	作業療法専攻	総合型選抜	エントリー		3	11		11			
			出願 ※1			10 (8)	タイプ A タイプ B	3 4	3 4	3.3 —	3.3 —
		学校推薦型選抜（指定校）			8	16		16	16	—	—
		学校推薦型選抜（公募）			9	12		11	11	1.3	1.1
		一般選抜			15	22		16	9	1.5	1.4
		共通テスト利用（前期）			3	30		26	1	10.0	1.2
		共通テスト利用（後期）			2	1		1	1	0.5	1.0
		特別選抜（社会人）			若干名	0		0	0	—	—
		専攻合計			40	91		77	45	2.3	1.2
	言語聴覚専攻	総合型選抜	エントリー		3	11		11			
			出願 ※1			10 (10)	タイプ A タイプ B	3 6	3 6	3.3 —	3.3 —
		学校推薦型選抜（指定校）			8	9		9	9	—	—
		学校推薦型選抜（公募）			9	16		11	11	1.8	1.5
		一般選抜			15	31		24	16	2.1	1.3
		共通テスト利用（前期）			3	29		25	2	9.7	1.2
		共通テスト利用（後期）			2	0		0	0	—	—
		特別選抜（社会人）			若干名	1		1	1	—	1.0
		専攻合計			40	96		79	48	2.4	1.2
	学科合計			140	365		262	158	2.6	1.4	
保健科学部合計			340	1,033		739	417	3.0	1.4		

※専攻合計・学科合計・保健科学部合計の人数に総合型選抜のエントリー者数は含まれません。

※1（ ）内の数はタイプB（奨学金なし）希望者の人数です。

令和7年度 学生在籍者数

5月1日現在

	保健科学部							大学院 保健科学 研究科	公衆衛生 看護学 専攻科	助産別科	キャリア教育研修センター			大学合計
	医学検査 学科	看護 学科	リハビリテーション学科				学部合計				認定看護師 教育課程 （脳卒中 看護分野）	認定看護師 教育課程 （認知症 看護分野）	特定行為 研修課程	
			理学療法学 専攻	作業療法学 専攻	言語聴覚学 専攻	学科合計								
1年	125	138	68	47	50	165	428	12	20	21	8	12	4	505
2年	114	121	74	29	51	154	389	22						411
3年	126	126	75	39	29	143	395							395
4年	114	117	58	39	27	124	355							355
合計	479	502	275	154	157	586	1,567	34	20	21	8	12	4	1,666

学友会役員紹介

本年度学友会会長を務めさせていただくりハビリテーション学科理学療法学専攻3年の井川陽仁です。副会長の緒方光陽(理学療法学専攻3年)、西村衣純(理学療法学専攻2年)、その他の学友会運営部を筆頭に先生方、外部の企業様、地域の方々と共に楽しく活動していけるよう頑張りたいと思います。

今年度は、学友会の主な活動でもある西里駅の清掃活動に今まで以上に尽力して取り組みます。西里駅を本学の学生だけでなく地域の方々にも気持ちよく使って頂けるよう地域との関わりのきっかけにしたいと考えています。また、例年行われている「杏祭」もコロナの制限が緩和されており、去年よりも進化した杏祭ができるよう2年生を中心に計画しています。学年の垣根を超え、また地域との垣根も超えられるような交流ができる場にできるよう頑張ります。

本学のより良いものになるように学友会運営部役員一同努めて参ります。1年間よろしくお願ひします。



リハビリテーション学科
理学療法学専攻3年

井川 陽仁さん

クラブ・サークル活動

バレーボール部

こんにちは!私たちバレーボール部は、男女合わせて約140人で活動しています。活動日は毎週金曜日の18時から21時までで、アリーナで練習しています。初心者から経験者まで、誰でも気軽に参加できるのがこのサークルの魅力です。今年度は男子チームがインカレへの出場を予定しており、それに向けて日々真剣に練習に取り組んでいます。一方で、運動不足の解消や友達づくりを目的に参加しているメンバーも多く、経験や実力を問わず楽しめる雰囲気が特徴です。練習は和気あいあいとしており、男女仲良く、ゆるく楽しく活動しています。バレーボールが好きな人はもちろん、「ちょっと興味がある」「少し体を動かしたい」という方も大歓迎です。授業とアルバイトの合間に気軽にリフレッシュできるのも魅力のひとつです。私たちのサークルで、楽しい時間を一緒に過ごしませんか?充実した学生生活を送りたい方は、ぜひ一度見学に来てみてください!



文芸部



私たち文芸部は、主に1・2年生で活動しています。文芸部と聞くと少し硬い印象があるかもしれませんが、本学の文芸部はそんなことはありません!みんなで和気あいあいと活動しています。イラスト、写真、小説、詩など自分の得意な創作活動を行うことができます。そして、みんなで製作してきた作品たちを、文芸部文集「流星」を発行することで形として残しています。

月に1回程度、みんなで集まり、作品の進捗を報告しあいます。その際に創作活動や、部員同士で部活以外にも様々な話題の会話をしながら楽しく活動しています。杏祭では、黒板の飾りつけ、文集や作品の展示、お絵かきコーナーなど文芸部らしい休憩所を設営しています。

忙しい部活ではないので気軽に入れます!芸術が好きな方、今まで絵や小説など創作活動をしたことがない方、誰でも大歓迎です!皆さんの入部をお待ちしています!

新入生インタビュー

今年度の新入生に入学しての感想、
これからの抱負、楽しみにしている事、etc…インタビュー！

医学検査学科



若杉 温幸さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学した最初のころは友達ができるか、勉強についていけるかなど不安でいっぱいでした。ですが、本学は他の学科や先輩方、先生方と交流する機会がたくさんあるため、不安なことや講義で分からなかった部分を無くすことができています。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

海外留学プロジェクトに参加したいです。海外留学を通して、異なる文化を理解し、視野を広げたいと考えています。さらに、コミュニケーション能力を向上させてたくさんの人と交流したいと思います。

最後に
ひとこと！

たくさんの人に必要とされる臨床検査技師になれるように頑張ります。

リハビリテーション学科 理学療法専攻



杉山 百合瑛さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学当初は新しい環境に不安もありましたが、新たな仲間恵まれ、徐々に大学生活に慣れてきました。先生方や先輩方との交流も刺激的で、恵まれた学びの環境の中で理学療法への理解を深め、専門性を高めていきたいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

大学生にしかできないことに挑戦することです。貴重な4年間を生かして様々な活動に積極的に参加し、多様な人と関わることで視野を広げ、自分の可能性を広げたいと考えています。

最後に
ひとこと！

患者さんに寄り添い、心と身体の両面から支えられる理学療法士になれるように頑張ります！

リハビリテーション学科 言語聴覚専攻



橋爪 鈴さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

熊本大での学びはすべてが新鮮で、穏やかな雰囲気がとても気に入っています。日々の勉強にまだまだ慣れない部分もありますが、新しい仲間と互いに刺激を受けながら成長できそうです。将来の目標に向けて、充実した大学生活をスタートさせることができ、とても嬉しく思います。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

一人で旅行をすることです。大学生になったからこそ、自ら行動をする力を養い、自己成長に繋がりたいと考えています。将来的には一人での海外旅行に挑戦したいです！色々な価値観に出会いたいと思います。

最後に
ひとこと！

患者さんを笑顔にできる言語聴覚士になるため、一生懸命頑張ります！

公衆衛生看護学専攻科



平野 友梨亜さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

様々な出身地、経歴のクラスメイトと共にお互いに刺激し合いながら高め合える環境だと思います。課題や実習、就活等で忙しい日々ですが、先生方はとても優しく、安心して勉強に励むことができます。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

1年間で実習が何回かありますが、地域の特徴を理解して、健康課題の解決に向けた活動を展開できるようになりたいです。実習や講義を通して、自分の理想とする保健師像に近づけるような1年間にしたいです。

最後に
ひとこと！

1年間という短い期間ですが、充実した楽しい1年にします！

看護学科



石原 実和さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学当初は大学生活という新たな環境に不安が大きかったです。ですが、今では充実した施設、学びたい思いを支援して下さる多くの先生、優しい友達に恵まれ、看護を学んでいくこれからの4年間に期待で胸を膨らませています！

Q2 大学生活でやってみたいことは？

私は海外研修に参加したいと考えています。外国の医療制度を学ぶ事で、今の日本がどれだけ充実した医療を提供されているのか、外国の制度から取り入れられる事は無いのかについて吟味し、看護師としてもっと幅広い視野で活動できるようになりたいと感じています。

最後に
ひとこと！

心身共に支えることのできる看護師を目指して精一杯頑張っていきます！

リハビリテーション学科 作業療法専攻



矢野 正明さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学当初私は生れ育った場所と違うということもあり不安で頭がいっぱいでした。

しかし最高な友人、優しい先生方に出会い充実した大学生活を送っています。勉強面では難しい部分もありますが同じ夢を持つ仲間たちと切磋琢磨しながら頑張っていきたいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

私は留学をしたいと思っています。異なる文化や違う価値観を持つ人々と交流し自分の視野を広げたいと思っています。また現地の方々とたくさん交流し国際的なコミュニケーション能力を養い将来の事に役立てたいです。

最後に
ひとこと！

夢に向かって仲間たちと頑張りたいです。

大学院



白川 健太郎さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

熊本保健科学大学の学部生の時に培った知識や経験を生かし、母校の大学院で研究できることにとても喜びを感じています。馴染みのある環境でより専門的かつ実践的な内容に取り組めることをとても楽しみにしています。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

今後の臨床や研究に生かすことが出来るような資格を取りたいと思っています。資格は自分のキャリアアップにもつながりますし、研究の幅が広がると考えています。忙しい中での資格勉強にはなりませんが、頑張りたいと思います。

最後に
ひとこと！

実りのある大学院生活を送れるように研究に勤しみたいと思います。

助産別科



山本 万都香さん

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

4年間過ごした大学の助産別科で、また勉学に励むことができることにとても嬉しく思います。同じ助産師を志すクラスメイトと共に講義や学内演習に取り組み、お互いに励まし合いながら、毎日楽しく充実した日々を送っています。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

以前から産後ケアについて関心があるため、地域母子保健実習での育児相談や訪問指導の実際を見たり、様々なボランティア・地域活動に積極的に参加したりする中で、今後、地域で活躍する助産師に必要な知識やスキルの習得に励みたいです。

最後に
ひとこと！

母子とその家族に寄り添い、助産師として必要なスキルが身につくよう精一杯頑張ります。

令和6(2024)年度 著書論文歴

※詳細はホームページに掲載しております(<https://www.acoffice.jp/khsuhp/KgApp>)
※本学の教員・学生・受入研究員には下線(著者順/著者数)

【査読有】

著者・共著者	標題	掲載誌名
Takahashi N, <u>Kawaguchi T</u> (5/7), Shimoda K.(他4名)	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2023: leukemia-4. Chronic myeloid leukemia (CML)/myeloproliferative neoplasms (MPN)	Int J Hematol
Oda K, <u>Kawaguchi T</u> (10/11), Nakata H.(他8名)	Antibiotic spectrum coverage scoring as a potential metric for evaluating the antimicrobial stewardship team activity: a single-center study	Infect Control Hosp Epidemiol
Hossain M,B, <u>Kawaguchi T</u> (14/19), Satou Y,(他16名)	A micro-disc-based multiplex method for monitoring emerging SARS-CoV-2 variants using the molecular diagnostic tool Intelli-OVI	Commun Med (Lond)
Iriyama N, <u>Kawaguchi T</u> (最終). (他14名)	Changes in chronic myeloid leukemia treatment modalities and outcomes after introduction of second-generation tyrosine kinase inhibitors as first-line therapy: a multi-institutional retrospective study by the CML Cooperative Study Group.	Int J Hematol
Higashi-Kuwata N, <u>Aoki M</u> (21/28), Mitsuya H.(他25名)	An orally available P1'-5-fluorinated Mpro inhibitor blocks SARS-CoV-2 replication without booster and exhibits high genetic barrier	PNAS Nexus
<u>Ito T</u>	Molecular pathology of small cell lung cancer: Overview from studies on neuroendocrine differentiation regulated by ASCL1 and Notch signaling.	Pathol Int
Kuroda S, <u>Ito T</u> (2/18), Kamba T.(他15名)	HIF1 α plays a crucial role in the development of TFE3-rearranged renal cell carcinoma by orchestrating a metabolic shift toward fatty acid synthesis.	Genes Cells
Horiba K, <u>Kuroda M</u> (最終).(他4名)	Complete genome sequence of <i>Selenomonas</i> species strain TAMA-11512, isolated from blood culture of a septic patient	Microbiol Resour Announc.
Ohkusa T, <u>Kuroda M</u> (最終).(他4名)	Comparison of the Gut Microbiota of Patients Who Improve with Antibiotic Combination Therapy for Ulcerative Colitis and Those Who Do Not: Investigation by Fecal Metagenomic Analyses	Nutrients
Momose Y, <u>Kuroda M</u> (4/10), Asai T.(他7名)	Changes in the Phenotypes of Salmonella spp. in Japanese Broiler Flocks	Food Saf (Tokyo) .
Azuma T, <u>Kuroda M</u> (最終).(他2名)	Development of a High-Throughput Analytical Method for Antimicrobials in Wastewater Using an Automated Pipetting and Solid-Phase Extraction System	Antibiotics (Basel)
Nakamura T, <u>Yokoyama T</u> (最終).(他1名)	Diverse antifungal potency of terbinafine as a therapeutic agent against <i>Exophiala dermatitidis</i> in vitro	Sci Rep. 2024 Nov 11;14(1):27500. doi: 10.1038/s41598-024-78815-3
Otsuka Y, <u>Yano M</u> (最終).	FAM136A depletion induces mitochondrial stress and reduces mitochondrial membrane potential and ATP production	FEBS Open Bio
Sakamoto M, <u>Sakamoto A</u> (9/16), <u>Kameyama H</u> (11/16), <u>Nambu M</u> (12/16), <u>Anraku K</u> (14/16). (他10名)	Oxaprozin and SB-43152 hybrid molecule inhibits fibrosis and cancer cell migration	Synthesis
Muroya K, <u>Kumagai Y</u> (3/5), Tajima T.(他2名)	Factors Contributing to Well-Being in Japanese Community-Dwelling Older Adults Who Experienced Spousal Bereavement	Res Gerontol Nurs
Yabuki J, <u>Yamamoto R</u> (3/6), Akizuki K.(他3名)	Effects of visual terminal feedback on hand dexterity in relation to visuospatial ability in subacute stroke: a preliminary study.	Scientific reports
<u>Honda K</u> , Izumi S.(他5名)	Effects of ankle-foot orthosis with dorsiflexion resistance on the quasi-joint stiffness of the ankle joint and spatial asymmetry during gait in patients with hemiparesis	Clinical Biomechanics
Xu X, <u>Honda K</u> (3/4), Izumi S.(他1名)	Motion analysis of 3D multi-segmental spine during gait in symptom remission people with low back pain: a pilot study	BMC Musculoskelet Disord
Raza A, <u>Honda K</u> (4/11), Ebihara S.(他8名)	Gait classification of knee osteoarthritis patients using shoe-embedded internal measurement units sensor	Clinical Biomechanics

著者・共著者	標題	掲載誌名
Huang C, <u>Honda K(4/10)</u> ,Izumi S.(他7名)	Adapting Young Adults' In-Shoe Motion Sensor Gait Models for Knee Evaluation in Older Adults: A Study on Osteoarthritis and Healthy Knees	Sensors
Kusuda K, <u>Matsubara S(2/10)</u> , <u>Honda K(最終)</u> .(他7名)	Concurrent Validity of Depth-Sensor-Based Quantification of Compensatory Movements during the Swing Phase of Gait in Healthy Individuals	Biomechanics
Maesako S, <u>Miyazaki T(3/5)</u> ,Taniguchi N.(他2名)	Two patients with giant acromioclavicular joint cysts underwent reverse shoulder arthroplasty for cuff tear arthropathy	JSES Reviews, Reports, and Techniques
Araki S, <u>Miyazaki T(3/9)</u> ,Kiyama R.(他6名)	Longitudinal changes in vertical stride regularity, hip flexion, and knee flexion contribute to the alteration in gait speed during hospitalization for stroke	Human Movement Science
Uekama K, <u>Miyazaki T(2/5)</u> ,Taniguchi N.(他3名)	Examination of the factors associated with humeral head size as calculated by 3-dimensional computed tomography in patients with rotator cuff tears	Seminars in Arthroplasty: JSES
Araki S, <u>Miyazaki T(2/9)</u> ,Kiyama R.(他6名)	Examination of effect and responder to real-time auditory feedback during overground gait for stroke: a randomized cross-over study	Scientific reports
<u>Miyazaki T</u> ,Kawada M.(他8名)	Inertial measurement unit-based real-time feedback gait immediately changes gait parameters in older inpatients: a pilot study	Frontiers in Physiology
<u>Miyazaki T</u> ,Taniguchi N.(他3名)	Investigation of the limiting factors of shoulder joint complex motion in college baseball players: motion analysis of the humeral head and rotator cuff using ultrasound	JESE International,
Tawaratsumida H, <u>Miyazaki T(5/8)</u> ,Taniguchi N.(他5名)	Zoledronate alleviates subchondral bone collapse and articular cartilage degeneration in a rat model of rotator cuff tear arthropathy	Osteoarthritis and cartilage
Kawaguchi K, <u>Matsuo T(8/9)</u> ,Higashi T.(他6名)	Effects of Different Visual Flow Velocities on Psychophysiological Responses During Virtual Reality Cycling. C	ureus
<u>Kotegawa K</u> ,Teramoto W.(他3名)	Association between individual differences in gait motor imagery and visuo-spatial working memory after stroke	Neuroscience Letters
Sakamoto M, <u>Takenaga K(最終)</u> .	Mode recombination formula and nonanalytic term in an effective potential at finite temperature on a compactified space	Phys. Rev. D
<u>Nonaka K</u> ,Yamaga T(4/6),Akaike N(最終).	Synaptic effects of xenon on NMDA receptor-mediated response in rat spinal neuron	Neuroscience Letters
Uji M, <u>Watanabe J</u> ,Kitamura T	Examining the hypothesis of Common Factors Shared by Different Addictive Behaviors and Gender Effects on Propensity to Addiction Type.	Open Journal of Medical Psychology
Shitada C,Yamamoto T(10/12), <u>Takahashi M(11/12)</u> , <u>Kuroda M(最終)</u> .(他8名)	Genomic Analysis of a Novel Bacterial Species <i>Corynebacterium ramonii</i> ST344 Clone Strains Isolated from Human Skin Ulcer and Rescued Cats in Japan	Zoonotic Dis.
Araki H, <u>Araki E(最終)</u> .(他2名)	Updates of incretin-related drugs for the treatment of type 2 diabetes.	Journal of Diabetes Investigation
Araki H, <u>Araki E(11/12)</u> , Nakao M.(他9名)	LSD1 defines the fiber type-selective responsiveness to environmental stress in skeletal muscle.	eLife
Bouchi R, <u>Araki E(11/21)</u> , Ueki K.(他18名)	Impact of COVID-19 pandemic on behavioral changes and glycemic control and a survey of telemedicine in patients with diabetes: A multicenter retrospective observational study.	Journal of Diabetes Investigation
<u>Matsushima-Nagata K</u> , <u>Anraku K(4/10)</u> , <u>Araki E(9/10)</u> , Sugiuchi H.(他6名)	Relationship between remnant circulating lipoprotein cholesterol concentration, measured by homogeneous assay, and clinical parameters in patients with type 2 diabetes.	Biomolecules
Murata Y, <u>Araki E(最終)</u> .(他11名)	A Case of Autoimmune Polyglandular Syndrome Type 3 Complicated with IgG4-related Disease.	Intern Med
Toma T, <u>Araki E(8/9)</u> , Tateishi H.(他6名)	An ADAM17 selective inhibitor promotes glucose uptake by activating AMPK.	J Pharmacol Sci

令和6(2024)年度 著書論文歴

著者・共著者	標題	掲載誌名
Arai H, <u>Araki E(3/9)</u> , Ishibashi S.(他6名)	Efficacy and safety of pemafibrate extended-release tablet: a phase 3, multicenter, randomized, double-blind, active-controlled, parallel-group comparison trial.	J Atheroscler Thromb
Ishibashi S, <u>Araki E(4/10)</u> , Yamashita S.(他7名)	Pharmacokinetics and Safety of Pemafibrate in Patients with both Dyslipidemia and Severe Renal Impairment: A Phase 4 Study.	J Atheroscler Thromb
Yamashita S, <u>Araki E(2/9)</u> , Ishibashi S.(他6名)	Clinical Pharmacology of Pemafibrate Extended-release Formulation in Patients with Hypertriglyceridemia—A Phase 2, Multicenter, Active-controlled, Randomized, Single-blind, Crossover study.	J Atheroscler Thromb
Nakamura J, <u>Araki E(8/10)</u> , Kamiya H.(他7名)	Causes of death in Japanese patients with diabetes based on the results of a survey of 68,555 cases during 2011-2020: Committee report on causes of death in diabetes mellitus, Japan Diabetes Society (English version).	J Diabetes Investig
Toma T, <u>Araki E(12/13)</u> , Tateishi H.(他10名)	An antifibrotic compound that ameliorates hyperglycaemia and fat accumulation in cell and HFD mouse models.	Diabetologia
Okagawa S, <u>Araki E(最終)</u> .(他13名)	Hepatic SerpinA1 improves energy and glucose metabolism through regulation of preadipocyte proliferation and UCP1 expression.	Nat Commun
Fukuda K, <u>Araki E(4/5)</u> , Yamagata K.(他2名)	Age-Related Glucose Intolerance Is Associated with Impaired Insulin Secretion in Community-Dwelling Japanese Adults: The KumamotoKoshi Study	Biomedicines
Wada T, <u>Araki E(13/14)</u> , Kubota N.(他11名)	Orally administrated acetate inhibits atherosclerosis progression through AMPK activation via GPR43 in plaque macrophages.	Atherosclerosis
Arai H, <u>Araki E(3/9)</u> , Ishibashi S.(他6名)	Long-Term Effects of Extended-Release Pemafibrate Tablets on Dyslipidemia and Safety in Triglyceridemic Patients: A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-Label, Parallel-Group Study.	J Atheroscler Thromb
福本政和, 芳之内達也, 林秀幸, 水田加奈子, 山本景一, <u>横山俊朗</u> , 中村朋文, 田中靖人	GeneXpert®システムを用いて迅速に報告し得た多剤耐性 Mycobacterium tuberculosisの1症例	くまもと医学検査
穴井智也, 山本紀子, 阿部ゆかり, <u>横山俊朗</u> , 松岡雅雄, 田中靖人	尿沈渣を契機に診断されたアデノウイルス性出血性膀胱炎の一例	Medical kumamotoAssociation of medical Technologists くまもと医学検査 Vol13.23-25.2024
本田奨, 福吉葉子, 崎田紫織, <u>横山俊朗</u> , 上野志貴子, 内場光浩, 田中靖人, 安永純一郎	急激な血小板減少をきたした薬剤性血小板減少症の一例	Medical kumamotoAssociation of medical Technologists くまもと医学検査 Vol13.5-7.2024
北川内優佳, 竹村侑紀, 福嶋理香, 石原綾子, <u>横山俊朗</u> , 中村朋文, 松岡雅雄, 田中靖人	β -D-グルカン測定試薬「 β -グルカンシングルM30テストワコー」の基礎的検討	医学検査 73(2): 271-277, 2024.
<u>富田文子</u> , 百田浩志, 関谷晃一	全国済生会臨床検査室におけるヒヤリ・ハット/インシデント/アクシデント報告の実態、報告数を増やす取り組みに対するアンケート調査結果	医学検査
荒尾はほみ, <u>上妻行則</u>	Rivaroxaban は凝固因子インヒビター模擬検体およびサーベイ検体として有用である	医療検査と自動化
<u>岡順子</u> , 戸渡洋子, 荒木善光	次代を担う保健師を養成するための基礎教育	熊本保健科学大学研究誌
末永真由美, <u>久松美佐子</u> , 前田則子	精神科病院がない離島で生活する精神障害をもつ人への保健・福祉従事者による支援	日本精神科看護学術集会誌
前田則子, <u>久松美佐子</u> , 西口和寿, 文鐘聲	地域におけるインドネシア, ベトナム, フィリピン等東南アジア系外国籍住民対応の課題ー神戸市法定単位民生委員児童委員協議会会長へのアンケート調査よりー	畿央大学紀要
文鐘聲, 前田則子, <u>久松美佐子</u> , 西口和寿	民生委員・児童委員における東南アジア系外国籍住民の認知および相談支援の現状	畿央大学紀要

著者・共著者	標題	掲載誌名
吉井紀子, 荒木善光, 戸渡洋子	国際保健・看護を学ぶ看護系大学生の受講前後での興味・関心の変化	大阪青山大学紀要
江上史子, 久松美佐子, 早木幸江, 山下亜矢子	精神看護学での視聴覚教材活用後のシミュレーション演習における看護学生の体験	熊本保健科学大学研究誌
甲斐村美智子	コロナ禍に発生した熊本豪雨災害による母子の中長期的メンタルヘルスの実態と関連要因	日本母性看護学会
甲斐村美智子, 福本久美子	幼児の就寝時刻と幼児を取り巻く家庭・社会的環境要因の関係	熊本保健科学大学研究誌
早木幸江, 久松美佐子, 江上史子, 山下亜矢子	精神看護学における視聴覚教材を用いたシミュレーション演習に対する看護学生の学習意欲と評価	熊本保健科学大学研究誌
岩下佳弘, 戸渡洋子, 爲近岳夫, 荒木善光, 田中恵理, 大森久光	老後の自宅生活継続のための準備状況	総合リハビリテーション
杉本和樹, 岩下佳弘, 前田曙, 山田しょう子, 飯山準一	マウスにおける受動温熱刺激に対する腎微小循環 応答: TRPV4 と交感神経系の寄与	日本腎臓リハビリテーション学会誌
田中貴士, 前田拓哉, 柳田寧々, 三次恭平, 古木はたる	脳損傷モデルマウスの運動機能回復には自発的運動の量が寄与する	熊本県理学療法アドバンス
山本良平, 宮田浩紀, 中村祐貴, 池寄寛人, 松原誠仁, 久保高明, 爲近岳夫, 枝尾久美, 畑添涼, 平江満充帆, 松原慶吾	介護予防事業に関するボランティア活動が作業療法学生の介護予防に関連する病態の理解, 地域リハビリテーションへの興味, 学習やボランティアへの意欲と就職希望施設に与える影響	熊本保健科学大学研究誌
吉村友希, 與座嘉康	臨床技能および思考過程の内容を含むオンライン学内評価実習の報告	リハビリテーション教育研究
山野克明	リハビリテーション専門職の臨床倫理的問題と解決方法に関する調査研究～テキストマイニングを用いた分析～	熊本保健科学大学研究誌
尾鷲百佳子, 久保温子, 仙波梨沙, 平尾文, 溝田勝彦, 小松洋平, 藤原和彦	年長児の保護者における小学校就学準備への認識～第1子の保護者と第2子以降の保護者の比較～	作業療法佐賀
井上忠俊, 高石晃子, 仙波梨沙, 吉村和也, 石野悟史, 中野敦雄, 小濃徹大, 秋葉雄太, 後藤みなみ, 中村貴志	アルツハイマー型認知症者の認知機能と歩行機能の関連性	応用老年学
仙波梨沙, 藤原和彦, 小松洋平, 岸川由紀, 尾鷲百佳子, 伊藤恵美, 井上忠俊, 後藤純信	地域在住高齢者における買い物時の物品探索行為の特徴	作業療法佐賀
藤原和彦, 仙波梨沙, 岸川由紀, 尾鷲由佳子, 伊藤恵美, 釜崎大志郎, 小松洋平	農村部在住高齢者におけるLife-Space Assessment予測式の算出～日用品購入店舗件数に着目した横断研究～	作業療法佐賀
坂田潤哉, 藤井廉, 野中裕樹, 山野克明, 細川浩, 小手川耕平	整形疾患患者に対するバーチャルリアリティデバイスを用いた作業療法の試みー視覚性ワーキングメモリ機能の低下に着目した事例報告ー	作業療法研究くまもと
小手川耕平, 大塚開成, 河口万紀子	臨床実習における作業療法学生の高次脳機能障害に対する理解・実践能力の自己評価	作業療法
吉村友希, 與座嘉康, 久崎孝浩	作業療法学生を対象とした精神障害領域臨床実習自己効力感尺度の作成	教育システム情報学会誌
吉村友希, 戸田真志, 久保田真一郎, 鈴木克明	精神障害領域作業療法における治療的態度修得のための熟考の機会を設けた授業設計と効果の検証	教育システム情報学会誌
吉村友希, 與座嘉康, 水本豪, 池寄寛人, 松尾朗	作業療法士養成課程の非同期型遠隔授業における自己調整学習方略支援を目的とした教育介入効果の検証	作業療法の実践と科学
池寄寛人, 松原慶吾, 星子隆裕, 外山慶一, 吉村知佐子, 平江満充帆	言語聴覚士教育における臨床実習後客観的臨床能力試験の開発	言語聴覚研究
井崎基博, 松尾朗, 永友真紀	ことばの相談室における2023年度の取り組みと今後の展望	熊本保健科学大学研究誌
宮本恵美	維持期における失語症訓練について ～PACE, CIAT, rTMSを中心に～	熊本保健科学大学研究誌
塩見将志, 小内仁子, 荻野亜希子, 水本豪, 福永真哉, 都筑澄夫	吃音者に認められる社交不安の状態と自然で無意識な発話への避克的アプローチの効果	言語聴覚研究
平江満充帆, 松原慶吾, 古賀和美, 水本豪	超音波検査による嚥下関連筋の量的・質的評価の信頼性	言語聴覚研究

令和6(2024)年度 著書論文歴

著者・共著者	標題	掲載誌名
古庄夏香, 松本智晴, 栗野秀慈, 岩崎正則, 前田ひとみ	血液透析患者の口腔乾燥改善を目的とした口腔ケアプログラムの開発・評価ー混合研究法による評価ー	日本慢性看護学会誌
前原敬子, 松本智晴, 前田ひとみ	1歳6カ月～2歳未満児を持つ父親の親役割に影響する要因と父親の親役割と母親が認識する父親の親役割及び母親役割肯定感の関連(原著論文)	母性衛生
大村由紀美, 松本智晴, 前田ひとみ	病院の看護教育者のためのコンピテンシー自己評価尺度の開発	日本看護研究学会雑誌
古庄夏香, 松本智晴, 栗野秀慈, 岩崎正則, 前田ひとみ	血液透析患者の口腔乾燥感と口腔内関連データおよび栄養関連データに関する実態調査	日本口腔ケア学会雑誌
内村香代子, 飯山有紀	臨床看護師を対象とした看護過程に沿った認知症看護研修の試みとその評価	熊本保健科学大学研究誌
佐々木千穂, 竹島久志, 境信哉	重症難病児のコミュニケーション発達支援ー機器類を用いた支援の必要性と諸問題ー	日本難病医療ネットワーク学会機関誌
諸熊一則, 久米田幸介, 高橋元秀	ラテックス免疫比濁法による破傷風およびジフテリア抗原の簡便で迅速な測定法の開発	熊本保健科学大学研究誌

【査読無】

著者・共著者	標題	掲載誌名
Yokoyama T, Kameyama H(2/5), Nambu M(3/5), Mikami Y.(他1名)	Quantitative Measurement and Visual Modeling of Cervical Cells Advancing Diagnostic Accuracy and Morphological Education in LSIL and ASC-US	Korea, Japan, Taiwan cytothechnology joint meeting 12th, vol1.9. 2025
Nambu M, Matsumoto S, Kameyama H, Yokoyama T	Fractal Analysis of Nuclear Chromatin as a Criterion in Cytodiagnosis	Korea, Japan, Taiwan cytothechnology joint meeting 12th, vol1.6. 2025
Yamamoto R, Akizuki K.(他2名)	Effects of self-controlled feedback on learning range of motion measurement techniques and self-efficacy among physical therapy students: a preliminary study	BMC Medical Education
黒田誠	病院排水浄化による環境薬剤耐性(AMR)負荷軽減策	検査と技術
竹村侑紀, 山下昭一郎, 眞部正弘, 山内露子, 横山俊朗, 山口和, 野村真希, 吉丸洋子, 瀬戸山博子, 田中靖人	肝炎医療コーディネーターの新たな挑戦	肝臓(0451-4203) 65巻Suppl.1 Page A265(2024.04)
奥村美保, 山内露子, 横山俊朗, 内場光浩, 田中靖人	APTTが著明に延長したヌーナン症候群の一例	日本医学検査学会抄録集73回
宮崎佳純, 宇宿弘輝, 原田美保, 西米智子, 横山俊朗, 辻田賢一, 田中靖人	右室-肺血管uncouplingはATTR型心amyloidosisにおける予後予測に有用である	超音波医学(1346-1176) 51巻Suppl. Page S489(2024.04)
野口桃子, 宇宿弘輝, 日高秀昭, 原田美保, 西米智子, 横山俊朗, 辻田賢一, 田中靖人	僧帽弁形成術後の左房機能に関する検討	超音波医学(1346-1176) 51巻Suppl. Page S541(2024.04)
横山俊朗	Editorial-今月のことば 臨床検査技師としての自律性と成長への道	Medical Technology 52 (12), 1193-1193, 2024-12-15
荒尾ほほみ, 古垣達也, 川口辰哉, 鈴木保之, 平松祐司, 上妻行則	体外循環時間の延長に伴う術中・術後の出血傾向のメカニズム解明に挑むー模擬体外循環を用いた基礎検討ー	人工臓器
井上加奈子, 吉野拓未, 荒尾博美	科目間の学習内容の連携強化で学生の気づきと学びをなくむ	看護展望
徳永郁子, 竹熊千晶, 山口裕子, 立石多貴子, 亀山広喜, 水本豪, 山口類, 松原慶吾, 森みずえ, 荒尾博美, 岡順子, 飯山有紀	地域におけるマルチプラットフォームとしての「暮らしの保健室」がもつ役割と高齢者社会をささえるサポートづくりの現状	熊本保健科学大学研究誌
久松美佐子, 山下亜矢子	看護系大学の現状と実習先病院に望むこと	日本精神科病院協会雑誌
甲斐村美智子	就労女性における月経周辺期の健康問題	別冊Bio Clinica
角マリ子	社会福祉法人における認知症カフェの役割	日本認知症ケア学会誌
伊山聡子, 片山恵, 野寄亜矢子, 原田さとみ, 清水佐知子	COVID-19ワクチン接種業務経験後に再就職した潜在看護師の復職行動に至る要因の検討	熊本保健科学大学研究誌

著者・共著者	標題	掲載誌名
久保高明,山野克明,枝尾久美,山本良平,本田啓太,田中貴土,松尾崇史,仙波梨紗,池寄寛人ほか	マネジメントの極意をつかむ！PT・OT・STのためのリハビリテーション管理学	診断と治療社
久保高明	必勝カコムンPTOT共通（臨床医学）	Roundflat
久保高明	必勝カコムンPTOT共通（解剖・生理・運動学）	Roundflat
久保高明	必勝カコムン作業療法士	Roundflat
久保高明	必勝カコムン理学療法士	Roundflat
岩下佳弘,前田曙,山田しょう子,飯山準一	温度感受性TRPチャネルを介した腎臓リハビリテーションの可能性	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine
田中貴土,上野将紀	老化した神経修復能を回復させるリハビリテーション	Medical Science Digest
吉村友希	採録論文ハイライト	教育システム情報学会誌
大塚裕一,井崎基博,松尾朗,宮本恵美,他20名	言語聴覚士国家試験マスターノート	株式会社 メジカルビュー社
佐藤晋治,倉内紀子,井崎基博	地域における多職種連携の現状と課題	K-ABCアセスメント研究
池寄寛人	地域の士会活動報告ー一般社団法人熊本県言語聴覚士会における卒後教育の充実と新たな取り組みー	ディサースリア臨床研究
大塚裕一,宮本恵美,岡孝夫,金井孝典,工藤江梨果,鈴木将太,永友真紀,光内梨佐	STクリア言語聴覚療法2 失語症	建帛社
編著:内山量史,鈴木真生 執筆者:大岡治恵,永友真紀,松尾康弘,宮本恵美,矢野実郎,横山友徳	クリア言語聴覚療法1 言語聴覚障害論 第4章 言語聴覚療法の評価（宮本恵美） 第5章 言語聴覚療法とチームアプローチ（永友真紀）	建帛社
新名桂子,岩下いずみ,田中恵理,伊東栄志郎,鈴木英之,中尾真理,河原真也,福岡眞知子,安井誠	愛と笑いと革命の『ユリシーズ』	金星堂
飯山有紀	17章5節 慢性期看護実習	ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践
飯山有紀,中島洋子	アルツハイマー病の疾患修飾薬治療が可能となった時代における診断後支援	月刊地域ケアリング
益満美寿	総合リハビリテーション特集「脳卒中生生活期QOL向上にむけて」-余暇活動	総合リハビリテーション
眞部広紀,山本祐司,佐々木千穂,高嶋洋	由布市「男池の湧水」の潜水調査と水面下の地層観察	佐世保工業高等専門学校 研究報告
佐々木千穂,竹島久志,境信哉,伊藤和幸	重度肢体不自由を伴う医療的ケア児に対するICTを活用したコミュニケーション発達支援	地域ケアリング
田中優司,井村保,佐々木千穂,鎌田依里	第11回日本難病医療ネットワーク学会学術集会コミュニケーションワークショップ	日本難病医療ネットワーク 学会機関誌

令和6(2024)年度 学会発表

【国際学会】

※本学の教員・研究員・学生には下線

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Ueda Y, Obara N, Ueno S, Sakurai M, Hosokawa K, Murata T, Fukuoka Y, Hayama N, Yamashita M, Ogawa Y, Usuki K, Ikezoe T, <u>Kawaguchi T</u> , Hosen N, Kanakura Y, Gotoh A, Nishimura J.	Treatment burden of PNH patients in Japan: Results of the qualitative interview survey study.	The 29th European Hematology Association Congress
Arao H, Furugaki T, <u>Kawaguchi T</u> , Hitamatsu Y, Suzuki Y, <u>Kozuma Y</u>	Elucidation of the mechanism of intraoperative and postoperative bleeding tendency associated with prolonged extracorporeal circulation time.	XXXII Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis
Hisamatsu M, Maeda N, MOONJong-Seong, Nishiguchi K	Challenges in addressing Southeast Asian foreign residents in Japan toward a symbiotic society	UTokyo Nursing International Conference 2024
Yamashita A, <u>Hisamatsu M</u> , Nakajima T, Oshime M	Necessary Features of Learning Resources for Women with Alcohol Dependence	Global Health Recalibration International Conference 2024
<u>Hisamatsu M</u> , Yamashita A, Yoshii H	Nurses' support for psychiatric inpatients who are to be discharged to the remote island where they grew up	Global Health Recalibration International Conference 2024
<u>Hisamatsu M</u> , Yamashita A, Nerome Y	Factors that promote discharge of psychiatric inpatients to their native islands in Japan	28th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS CONFERENCE
Yamaki K, Kanai D, Matsubara S, <u>Shimamura T</u> , <u>Miyazaki T</u> , <u>Honda K</u>	RELATIONSHIP BETWEEN EXPLOSIVE LOWER LIMB STRENGTH AND DYNAMIC POSTURAL STABILITY DURING SINGLE-LEG LANDING IN HEALTHY YOUNG INDIVIDUALS	2024 ASCA International Conference on Applied Strength & Conditioning
<u>Yamano K</u>	Survey Research on the Experiences and Solutions of Clinical Ethical Issues among Rehabilitation Therapists	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC 2024)
Shirahama K, Takase K, <u>Yasuda T</u>	The Survey Study of Rehabilitation Treatment after Breast Reconstruction for Breast Cancer in Japan	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 (APOTC 2024)
<u>Miyata H</u> , <u>Tamechika T</u>	Verfying the effectiveness of a combined program aimed at preventive social fraity	17th AUAP learing and sharing forum on health & 9th AHSS
<u>Kotegawa K</u> , Megumi A, Oba N, Matsumoto K, Morozumi A, Sakamoto K, Yasumura A	Effectiveness of interventions using computer-based logical reasoning task for children with developmental disorders	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024
Takashima R, <u>Matsuo T</u> , Hirayama R, Saeki K	Older Men Living in a Modernizing Rural Village: Cultural Insights into Loneliness and Occupational Being	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024
Kichize Y, Hokonohara M, Fujimura M, Moriuchi T, Higashi T, <u>Matsuo T</u>	Effects of left prism adaptation using virtual reality on language fluency in healthy adults	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024
<u>Matsuo T</u> , Moriuchi T, Maruta M, <u>Tamechika T</u> , Yamazono D, Kichize Y, Kawaguchi K, Kawaguchi H, Higashi T	Loneliness in Aging Rural Communities :Insights from a Study of Older Japanese Men	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024
<u>Senba L</u> , Owashi Y	Relationship between purpose of use of after-school day services, child characteristics, and mother's stress	The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024
Tsubasa N, <u>Keita H</u> , <u>Takeshi S</u> , Yasunari Oniki, <u>Matsubara S</u>	Effects of mild hyperbaric oxygen therapy for running performance in junior male athletes	Annual Meeting of the European Society for Movement Analysis in Adults and Children 2024
<u>Matsubara S</u> , <u>Tsugiyama K</u>	Effects of wearing off-loading sandals on spatial and temporal parameters and ground reaction forces during gait	International Congress of Diabetic Foot 2024
Iwata M, Takashima R, <u>Sasaki C</u> , Takiguchi T	Individuality-Preserving Speech Synthesis for Spinal Muscular Atrophy with a Tracheotomy.	The 26th International ACM SIGACCESS Conference on Computers and Accessibility(ASSETS)

【全国学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
青木学, Das D, 青木宏美, 満屋裕明	HIV-1の高度dolutegravir(DTG)耐性発現メカニズムの解明とDTG耐性HIVにも高い活性を発揮する阻害剤の開発	第32回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会
青木学, Das D, 青木宏美, 満屋裕明	HIV-1の高度dolutegravir(DTG)耐性発現メカニズムの解明とDTG耐性HIVにも高い活性を発揮する阻害剤の開発	第38回日本エイズ学会学術集会・総会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
飯山準一, 古閑公治, 渡邊智, 安田大典, 久保高明, 奥川洋司, 爲近岳夫, 佐々木大輔, 中西信之, 松本圭史	高温多湿下での嗅覚刺激が中枢作用におよぼす影響	第89回日本温泉気候物理医学会学術集会
富田文子	医師の働き方改革を進めるための「タスクシフト/シェア」の取り組み～病棟へ送り出す臨床検査技師長としての立場から～	第73回日本医学検査学会
富田文子	拡がりを持った検査室を目指して～専門性の複数化～	第62回全国自治体病院学会 in新潟
大塚友詞, 矢野正人	FAM136Aの欠乏によりミトコンドリアストレス応答が惹起されるとともに、PCK群、HMGCS群、TOMM22およびTOMM20の発現量が増加する	第97回日本生化学会大会
野口桃子, 宇宿弘輝, 山本紀子, 西米智子, 横山俊朗, 森大輔, 尾池史, 辻田賢一, 田中靖人	右室-肺動脈UncouplingはATTR型心amyloidosisにおける予後予測に有用である	日本超音波医学会第97学術集会
宮崎佳純, 宇宿弘輝, 原田美保, 西米智子, 横山俊朗, 辻田賢一, 田中靖人	僧帽弁形成術後の左房機能に関する検討	日本超音波医学会第97学術集会
宮崎佳純, 宇宿弘輝, 尾池史, 三角郁夫, 西上和弘, 庄野弘幸, 西米智子, 山本紀子, 福古葉子, 横山俊朗	熊本県における心アミロイドーシス診断の現状評価についての検討と考察	第49回日本超音波検査学会学術集会
横山俊朗	シンポジウム「地震災害を考える」熊本地震災害を経験に基づく防災訓練の実際	第62回全国国立大学法人臨床検査技師会総会
原口日菜子, 荒尾ほほみ, 片平帆風, 椎葉瞳子, 山口明咲日, 川口辰哉, 鈴木良介, 清水信行, 山本哲哉, 上妻行則	神経内視鏡手術で用いられる人工脳脊髄液は抗血小板薬存在下でも血小板活性化を増強できる	第46回日本血栓止血学会学術集会
原口日菜子, 荒尾ほほみ, 片平帆風, 椎葉瞳子, 山口明咲日, 川口辰哉, 鈴木良介, 清水信行, 山本哲哉, 上妻行則	神経内視鏡手術で用いられる人工脳脊髄液は抗血小板薬存在下で抑制された血小板活性化を回復できる	第18回日本臨床検査学教育学会学術大会
西島朋香, 石本凌大, 稲嶺沙妃, 奥村尚優, 原口日菜子, 中村将己, 登尾一平, 荒尾ほほみ, 上妻行則	体外循環時に生じる人工肺入口圧上昇および人工肺内血栓形成を防止するための基礎的検討	第18回日本臨床検査学教育学会学術大会
中村将己, 上妻行則	Nerve Growth Factor Receptor (NGFR) の巨核球造血における影響	日本医療検査科学会第56回大会
登尾一平, 内場光浩, 川口辰哉, 安永純一郎, 上妻行則	脱シアル化GPIb α 断片による肝がん細胞株HepG2の増殖促進機構	第46回日本血栓止血学会学術集会
川田空輝, 上野佑, 古賀俊亮, 中村将己, 登尾一平, 上妻行則	輸血検査への応用を目指したヒト単球系白血病細胞株を用いた単球貪食試験の改良	第18回日本臨床検査学教育学会学術大会
田邊香野, 上妻行則, 川口辰哉	正しい飲酒行動啓発への応用を目指したアルコールパッチテストの客観的判定法の確立	第18回日本臨床検査学教育学会学術大会
田邊香野, 上妻行則	p75NTRはヒト末梢血B細胞におけるIgEクラススイッチ制御に関与する	第73回日本アレルギー学会学術大会
Tanabe K, Kozuma Y	Nerve growth factor is involved in the regulation of IgE class switch recombination in human B cells	第52回日本免疫学会学術集会
坂本亜里紗, 立石大, 登尾一平, 大塚雅巳, 藤田美歌子, 安楽健作	天然型およびミリスチル化カルジオリピンにより調製したリポソームの抗がん活性評価	日本薬学会145年会
志多田千恵, 山本隆敏, 森口美琴, 林秀幸, 森美聡, 徳岡英亮, 松本一俊, 堀場千尋, 黒田誠, 高橋元秀	熊本の患者および保護ネコから分離された Corynebacterium ulcerans の分子系統解析	第97回日本細菌学会
多久島寛孝	熊本地震における被災体験を振り返って	第31回ヘルスカウンセリング学会大会
三輪富士代, 倉岡有美子, 吉富ゆかり	A病院の看護師長を対象とした「看護現場の変革促進プログラム」	第28回日本看護管理学会学術集会
三輪富士代	こどもの意向を尊重するために看護師にできること - 私たちは、目の前のこどもの思いを本当に聴くことができているだろうか -	日本臨床倫理学会第12回年次大会 (シンポジウム5)
戸渡洋子, 荒木善光, 岡順子	健康まちづくり事業における市民・行政・大学が連携した「健康アンケート調査」の取り組み	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会
鈴木純子, 一色喜保, 小山千秋, 窪田志穂, 齊藤瑛梨, 田村晴香, 戸渡洋子, 永井智子, 中島富志子, 山崎真帆, 榎本晃子, 川口恭子, 神戸玲, 武井勇介	集まろう、つながろう、話そう 今日から活かせる教育実践のあれこれ～教員と考える学生とともに育ち合う教育～	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会
前田則子, 古川秀敏, 西村由実子, 久松美佐子, 堤由美子, 丹羽さよ子	外国人介護職の介護実践力を支えるチームケア尺度の信頼性と妥当性の検証	第44回日本看護科学学会学術集会
齋藤直毅, 工藤聡美, 山城智美, 江上史子, 宮崎初	COVID-19大規模災害での自身の体験を仲間と共有し、体験の意味を探索してみませんか? (ワークショップ)	第31回日本精神科看護専門学術集会
久保田千景, 松枝美智子, 河添こず恵, 齋藤直毅, 工藤聡美, 山岡由実, 増満誠, 江上史子, 西村和美, 脇崎裕子, 餅田敬司, 丸本典子, 宮崎初, 竹熊千晶	COVID-19大規模災害で影響を受けた看護職者のメンタルヘルスとメンタルヘルスリテラシーの実態	第44回日本看護科学学会学術集会
江上史子, 久松美佐子, 早木幸江, 山下亜矢子	精神看護学での視聴覚教材活用後のシミュレーション演習における看護学生の体験	第44回日本看護科学学会学術集会

令和6(2024)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
増満誠,松枝美智子,脇崎裕子,久保田千景,西村和美,江上史子,餅田敬司,丸本典子,河添こず恵,宮崎初,山岡由実,齋藤直毅,工藤聡美,竹熊千晶	複合的大規模災害への備え: COVID-19大規模災害で疲弊した看護職者への総合的支援事業からの学び(交流集会)	第44回日本看護科学学会学術集会
松成裕子,本武敏弘,松枝美智子,江上史子,前田愛,増満誠,葛島慎吾,田淵稔英,清村紀子,山崎律子,桃井雅子,鈴木啓子,高橋清美	高度実践看護師の活動の促進要因: 看護管理者からの支援に焦点を当てて	第44回日本看護科学学会学術集会
増満誠,松枝美智子,本武敏弘,松成裕子,葛島慎吾,江上史子,前田愛,田淵稔英,桃井雅子,清村紀子,鈴木啓子,高橋清美,山崎律子	高度実践看護師の活動の促進要因と阻害要因: 活動を保証するために必要な配置・職位・待遇に焦点を当てて	第44回日本看護科学学会学術集会
前田愛,松枝美智子,江上史子,葛島慎吾,増満誠,本武敏弘,松成裕子,桃井雅子,田淵稔英,清村紀子,鈴木啓子,山崎律子,高橋清美	高度実践看護師の活動の促進要因と阻害要因: 大学院修了後のモチベーションの変化に焦点を当てて	第44回日本看護科学学会学術集会
甲斐村美智子	熊本豪雨災害後の母子のメンタルヘルスの実態と関連要因	第71回日本小児保健協会学術集会
甲斐村美智子	幼児の理想の就寝時刻と現実には差が生じる要因	第23回日本ウーマンズヘルス学会学術集会
甲斐村美智子	幼児期の子どもにおける遅寝に関連する要因	第44回日本看護科学学会学術集会
澤崎美香,岩村純子	ストレスマネジメント教育の検討—看護学生のストレスとメンタルヘルスの実態から—(第1報)	日本看護研究学会第50回学術集会
永田千鶴,澤崎美香,太田友子,清永麻子,松本佳代,田中愛子	介護事業所における看取り教育研修プログラムの評価(第1報)	第47回日本死の臨床研究会年次大会
澤崎美香,永田千鶴,太田友子,清永麻子,松本佳代,田中愛子	介護事業所における看取り教育研修プログラムの評価(第2報)	第47回日本死の臨床研究会年次大会
吉田理恵	多職種連携のための会話場面における発話内容のSBARを用いた分析の試み	日本心理学会第88回大会
吉田理恵,堀律子,村上美華	熊本市民の口腔ケアに対する認識と実態	第44回日本看護科学学会学術集会
早木幸江,久松美佐子,江上史子,山下亜矢子	精神看護学における視聴覚教材を用いたシミュレーション教育に対する学生評価と学習意欲の関連	第44回日本看護科学学会学術集会
宮本明,久保高明	咽頭クリアランスに寄与する咽頭挙筋の構造的知見	第10回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会
山本貴大,久保高明	喉頭がん化学放射線療法後の嚥下障害と体力低下に対して、包括的な介入をした症例	第10回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会
小牧龍二,福永貴之,申敏哲	舌への感覚刺激が脳血管性認知症モデルラットの認知機能低下に及ぼす影響	第58回日本作業療法学会
岩下佳弘	腎臓疾患治療における温熱刺激の可能性	第89回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
田中貴土,佐藤時春,中村由香,前田拓哉,上野将紀	運動で増加した神経可塑性遺伝子の培養神経細胞における機能解析	脳機能とリハビリテーション研究会 第30回学術集会
前田拓哉,古木はたる,三次恭平,柳田寧々,田中貴土	脳損傷後の運動機能回復と自発的運動量との関係	脳機能とリハビリテーション研究会 第30回学術集会
関口雄介,本田啓太,渋谷綾祐,泉山祐美,出江紳,海老原 寛	T字杖が脳卒中片麻痺患者の歩行の安定性や推進力に及ぼす影響	第22回日本神経理学療法学会学術大会
楠田賢斗,松原誠仁,野口大助,桑原萌,濱崎寛臣,三輪俊博,前田徹,中西俊人,二宮省吾,本田啓太	深度センサを用いたマーカーレス3次元動作解析に基づく定量的歩行評価の検者内信頼性の検証	第22回日本神経理学療法学会学術大会
宮崎宣丞,木山良二,部當大尊,鈴木陸斗,福田将史,中島将武,竹下康文,川田将之	慣性センサーを用いた上肢運動時における肩関節の角度計測の妥当性	第29回日本基礎理学療法学会学術大会
嶋村剛史,加藤浩	高齢健常者と股関節外傷術後患者における歩行, 起立・着座動作速度と質的指標の関係	第12回運動器理学療法学会学術大会
Yamaguchi Y, Patrick PL Tam, Kiyonari H, Tanaka S	マウス生殖細胞の発生過程におけるImportin13の役割について	第57回日本発生生物学会
Yamaguchi Y, Patrick PL Tam, Kiyonari H, Tanaka S	Roles of Importin13 in mouse germ cell development	第47回日本分子生物学会
山野克明	わが国の作業療法士は「幸福」をどのように捉えているか?	第26回日本医療マネジメント学会学術総会
河口向日葵,吉瀬陽,富田浩紀,松尾崇史	地方在住シニア女性における化粧習慣の有無による心身・生活機能の比較	第58回日本作業療法学会
小手川耕平,黒田尚輝,坂田潤哉,藤井廉,寺本涉	脳卒中既往者の運動イメージと視空間ワーキングメモリの関連	日本心理学会第88回大会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
吉村友希	作業療法士養成教育におけるProblem-based learning実践例と今後の課題	第37回教育研究大会・教員研修会
仙波梨沙, 藤原和彦, 小松洋平, 岸川由紀, 尾鷲百佳子, 伊藤恵美	農村部在住の高齢者における自動車運転に対する不安と心身機能および生活との関係	第25回日本認知症ケア学会
井崎基博	語末と助詞の非流暢性発話を認めた自閉スペクトラム症児の経過	第50回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
井崎基博	多言語環境家庭における親の言語方針と子の言語選択	日本発達心理学会第35回大会
池寄寛人, 松原慶吾, 星子隆裕, 外山慶一, 吉村知佐子, 平江満充帆, 光内梨佐, 上松智幸, 宮本恵美, 大塚裕一	言語聴覚士教育における臨床実習後客観的臨床能力試験の開発—ルーブリック評価の信頼性・妥当性の検討—	第25回日本言語聴覚学会
竹谷剛生, 蓼田健太, 田端啓那, 田代丈二, 濱田雄仁, 小田原守, 池寄寛人	卒前教育から卒後教育へシームレス化を目指して～県士会による教育支援体制の構築（第1報）～	第25回日本言語聴覚学会
蓼田健太, 竹谷剛生, 田端啓那, 田代丈二, 濱田雄仁, 小田原守, 池寄寛人	卒前教育から卒後教育へシームレス化を目指して～県士会による教育支援体制の構築（第2報）～	第25回日本言語聴覚学会
村田竜一郎, 池寄寛人, 宮本和彦	大腿骨近位部骨折術後患者の実用性歩行獲得に影響する予後予測について	第60回日本赤十字社医学会総会
池寄寛人, 曾山直宏	音の途切れと引き伸ばしを認め原発性進行性発語失行と考えられた一例	第29回日本神経精神医学会
飯泉智子, 工藤絵梨果, 高橋泰子, 松原慶吾, 外山慶一, 星子隆裕, 吉村知佐子, 竹谷剛生, 内山千鶴子	養成校卒業時にもとめられる言語聴覚士のコンピテンシー～デルファイ法による抽出～	第25回日本言語聴覚学会
飯田一成, 松崎優子, 丸岡由佳, 平江満充帆, 松原慶吾	手指抵抗を用いた舌のレジスタンス運動が舌骨上筋群の筋活動に及ぼす効果の検討	第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
松原慶吾, 松原誠仁, 中村祐貴, 山本良平, 宮田浩紀, 宮崎宣丞, 池寄寛人, 久保高明, 枝尾久美, 爲近岳夫, 畑添涼, 平江満充帆, 荒木栄一	高校生と大学生が介入の主体となって健康寿命延伸に取り組む「阿蘇プロジェクト」の効果の検証	第48回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会
兒玉成博, 畑添涼, 橋本幸成, 今富摂子, 高倉祐樹, 小谷優平, 宮崎彰子	原発性進行性発語失行（PPAOS）の発話特徴—呼称、音読、復唱における一症例の探索的研究—	第48回日本高次脳機能学会学術総会
松尾朗	対人意識が低い小学校低学年次のアセスメントと支援—学校と家庭をつなぐ学校コンサルテーションに必要なことは？—	日本K-ABCアセスメント学会
坂本和也, 青木俊仁, 池聡, 佐藤公美, 伊藤美幸, 浅岡拓希, 坂本幸, 阿部晃治, 宇高二良, 北村嘉章	小児の音声の聴覚心理的評価とケプストラム分析に関する検討	日本音声言語医学会
坂本真人, 竹永和典	モード組み換え公式と有限温度の有効ポテンシャルの非解析項について	日本物理学会第79回年次大会
立石多貴子, 山鹿敏臣, 松本珠美, 嶋田かをる, 小倉正義, 日下部貴史, 西村優紀美, Peter Bernick, 船越高樹	障害のある学生への修学支援における「要件や基準」その2～東京大学PHED SIG-RS策定 QI集の活用に向けた検証～	第18回日本臨床検査学教育学会学術大会
川本紀子, 前田ひとみ, 松本智晴	新人看護師のキャリア・アダプタビリティの構成概念	第44回日本看護科学学会学術集会
山本麻起子, 松本智晴, 福重真美, 前田ひとみ	『解剖生理学』の学習目標設定と学習方略が学業成績に及ぼす影響	第44回日本看護科学学会学術集会
上村結香, 前田ひとみ	高齢者に看護師が行うフットケアの促進要因と抑制要因に関する文献検討	第44回日本看護科学学会学術集会
松本智晴, 福重真美, 前田ひとみ	健康診断データ及びレセプトデータを用いた生活習慣病移行のリスク予測	第44回日本看護科学学会学術集会
磯野さよ子, 松本智晴, 前田ひとみ	看護学生のコミュニケーションスキルと患者との人間関係形成技能に関する研究	第44回日本看護科学学会学術集会
渋谷暁春, 松本智晴, 前田ひとみ	介護老人福祉施設におけるアクションリサーチを用いたノロウイルス感染症対策の効果の検討	第44回日本看護科学学会学術集会
友岡史沙, 松本智晴, 前田ひとみ	新人看護師の医療事故体験を支援するプリセプター対象ソーシャルサポートプログラムの新人看護師への効果	第44回日本看護科学学会学術集会
大村由紀美, 松本智晴, 前田ひとみ	病院の新任看護教育者のコンピテンシーを高めるWeb学習システムの有効性 無作為化比較対象試験	第44回日本看護科学学会学術集会
徳永なみじ, 相原ひろみ, 金澤知典, 野本百合子, 前田ひとみ	看護技術習得における自己調整学習方略の学年間での活用比較	第44回日本看護科学学会学術集会
百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀	軽度脳卒中患者への日常生活援助の中で行うADLを強化するための看護ケアの実施と関連	日本老年看護学会第29回学術集会
百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀	重症度が中等度の脳卒中患者への日常生活援助の中で行うADLを強化するための看護ケアの実施と関連	日本看護研究学会第50回学術集会
鶴田綾, 飯山有紀, 内村香代子	「聞き書き」の実践で介護者のソーシャルサポートに繋がった事例	第51回日本脳神経看護学会学術集会

令和6(2024)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
白井幸乃, 栗原由貴美, 飯山有紀, 内村香代子	がん終末期の認知症の人が表出する苦痛と心情を慮る看護	第51回日本脳神経看護学会 学術集会
本田愛奈, 飯山有紀, 内村香代子	患者の認知機能に応じたコミュニケーション手段による意思 表明支援	第51回日本脳神経看護学会 学術集会
森眞悟, 飯山有紀, 内村香代子, 島野彩香	言語的コミュニケーションが困難な患者の意思表出を目指した関 りについて	第51回日本脳神経看護学会 学術集会
百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀	重度脳卒中患者への日常生活援助の中で行うADLを強化する ための看護ケアの認識と関連	第51回日本脳神経看護学会 学術集会
横井靖子, 内村香代子, 飯山有紀	脳卒中患者への緩和ケアの現状-脳卒中看護認定看護師と緩 和ケアチーム間における相談内容の質的分析-	第51回日本脳神経看護学会 学術集会
中下亜希子, 甲斐清也, 泉里加子, 中島康代, 福島智, 飯山 有紀, 堀田牧, 橋本衛, 津野田尚子	MCI及び軽度認知症患者へのピアサポートの取り組み	第29回日本神経精神医学会
飯山有紀, 横井靖子, 内村香代子, 水本豪	急性期病院における脳卒中患者と家族への緩和ケアの実践の 現状	第44回日本看護科学学会学術 集会
百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀	重度脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化す るための看護ケアの実施と関連	第44回日本看護科学学会学術 集会
内村香代子, 飯山有紀	臨床看護師を対象とした看護過程に沿った認知症看護研修の 試み	日本老年看護学会第29回学術 集会
岩村純子, 澤崎美香	ストレスマネジメント教育の検討 ―看護学生のストレスとレ ジリエンスとの関係からの考察― (第2報)	日本看護研究学会第50回学術 集会
渡邊淳子, 垣花渉	「前のめり型」授業を創出するための学生参画の試み	初年次教育学会第17回大会
佐々木千穂, 竹島久志, 境信哉, 伊藤和幸	重度肢体不自由児コミュニケーション発達支援システムを用 いた支援の経過報告-3事例を通じて-	第25回日本言語聴覚学会
眞部広紀, 高嶋洋, 稲川直裕, 稲田優希, 山本祐司, 佐々木千 穂, 長嶋豊, 堀井樹	火砕流堆積物中における大規模湧水と洞穴について	日本洞窟学会大会第50回大会 (佐野市葛生大会)
佐々木千穂, 伊藤和幸, 竹島久志	ICTを活用したSMA0型児に対するコミュニケーション発達支援 -第2報-	第12回日本難病医療 ネットワーク学会

【地方学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
村岡美空, 當眞嗣雅, 豊元柊弥, 澤智裕, 立石大, 福地裕 子, 伊藤隆明, 渡邊高志, 大塚雅巳, 安楽健作, 藤田美歌子	MAFLDを予防・改善する植物成分の同定と機能解析	第41回日本薬学会九州山口 支部大会
福田智輝, 立石大, 知念拓磨, 青木学, 島垣和功, 福田亮太, 坂 本亜里紗, 大塚雅巳, 藤田美歌子, 安楽健作	創薬を指向したHIV-1 Gag MAドメインとカルジオリピンとの 結合に関する研究	第41回日本薬学会九州山口 支部大会
富田文子	教育ツールを用いた超音波検査技師の育成と教育現場の取り 組み	日本超音波医学会第34回九州 地方会学術集会
戸田亜耶乃, 宇宿弘輝, 山本紀子, 西米智子, 原田美保, 横 山俊朗, 森大輔, 平田真哉, 田中靖人, 辻田賢一	全身性エリテマトーデス症例における心血管疾患罹患率の検討	日本心エコー図学会第35回学術 集会
吉武由佳里, 山内露子, 横山俊朗, 森大輔, 内場光浩, 田中 靖人	術前検査で偶然見つかったフィブリノゲン欠損症の一例	第56回熊本県医学検査学会
吉田剛士, 登尾一平, 萩尾修平, 西田千恵, 山口健太, 北島 茜, 松下義照	低頻度抗原Cwに対する抗体を検出した一症例	2024年日臨技九州支部医学 検査学会(第58回)
上野佑, 川田空輝, 古賀俊亮, 中村将己, 登尾一平, 上妻行則	輸血検査への応用を目指したヒト単球系白血病細胞株を用い た単球貪食試験の改良	2024年日臨技九州支部医学 検査学会(第58回)
西島朋香, 石本凌大, 稲嶺沙妃, 奥村尚優, 原口日菜子, 登 尾一平, 荒尾はほみ, 上妻行則	人工肺入口圧上昇および人工肺内血栓形成予防のための基礎 研究	2024年日臨技九州支部医学 検査学会(第58回)
田中貴士	老化マウスで失われた脳損傷後の機能回復力を促す運動の効果	九州理学療法士学術大会 2024
山本良平, 宮田浩紀, 中村祐貴, 久保高明, 松原誠仁, 池寄 寛人, 松原慶吾	介護予防事業への参加が理学療法学生の就職希望施設と介護予防に 対する理解、興味、意欲に及ぼす影響	第26回熊本県理学療法士学会
嶋村剛史, 加藤浩	高齢健常者と退院準備期における股関節外傷術後患者の歩行動作 速度とHarmonic Ratioの関係	九州理学療法士学術大会 2024
宮崎宣丞, 堤省吾, 池田恵子, 木村玲央, 大濱倫太郎, 下堂 園恵, 谷口昇	運動器疾患患者における努力歩行時の歩行戦略と身体機能の関 連	九州理学療法士学術大会 2024
小脇秀俊, 木田光, 池寄寛人	吃音症状に呼吸困難感を伴った進行性核上性麻痺の一例	第13回日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会 鹿児島大会
池寄寛人, 松原慶吾, 水本豪	若手言語聴覚士が経験するリアリティ・ショックの現状と影響	第13回日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会 鹿児島大会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
大森史隆,倉智雅子,松原慶吾,和田佳央理,木村翔一,山野貴史	前縦靱帯骨化症患者一例に対して行った嚥下リハビリテーション	第13回日本語聴覚士協会九州地区学術集会鹿児島大会
畑添涼,安藤美幸,山本恵利香,國徳尚子,平田好文	高次脳機能障害者の就労支援ー支援により就労の適応に違いが生じた2症例ー	第13回日本語聴覚士協会九州地区学術集会 鹿児島大会
有馬冬桜,益満美寿	肩手症候群の症状変化に応じた作業療法介入	第31回長崎県作業療法学会

【研究会・シンポジウム等】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Yokoyama T, Kameyama H, Nambu M, Kakinuma H, Mikami Y	Quantitative Measurement and Visual Modeling of Cervical Cells Advancing Diagnostic Accuracy and Morphological Education in LSL and ASC-US	12th Korea Japan Taiwan Cytotechnology Joint meeting
中村将己,上妻行則,田邊香野,登尾一平,川口辰哉	巨核球造血における Nerve Growth Factor Receptor (NGFR) の関与の検討	第44回阿蘇シンポジウム
登尾一平,内場光浩,川口辰哉,安永純一郎,上妻行則	血小板の脱シアル化は HepG2 細胞の増殖を促進させる	第44回阿蘇シンポジウム
原口日菜子,荒尾ほほみ,片平帆風,椎葉瞳子,山口明咲日,川口辰哉,鈴木良介,清水信行,山本哲哉,上妻行則	人工髄液は抗血小板薬存在下で抑制された血小板活性化を回復できる	第44回阿蘇シンポジウム
上妻行則	巨核球造血における nerve growth factor receptor (NGFR) の意義	第4回Thrombosis Hemostasis Research Seminar
田邊香野,上妻行則	IgEクラススイッチ制御メカニズムにおける脱リン酸化酵素の関与の検討	第44回阿蘇シンポジウム
切通茜,野田とも子,濱崎由,西村朋美,隈部尚美,岡順子他	保健師の職場環境や仕事に対する意欲などの実態調査報告からの考察	第28回熊本県国保地域医療学会
川口弥恵子	医療の軌道管理の視点から看護を問いなおす——看護師の见えない仕事のエスノグラフィ	第9回まるはち人類学研究会 (「特別企画：北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) の大学院生・若手研究者との交流セミナー」)
吉野拓未	A Survey on Ethical Dilemmas Faced by Nursing Teachers in Clinical Practice	9th Allied Health Sciences Symposium
申敏哲	行動量計と分子生物学的手法を用いたベンゾピレン中毒ラットに対するa 5-deazaflavin derivative(TND)の効果検討	令和6年度全国油症治療研究 班会議ー食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究
申敏哲	黒酢と黒高麗人参の組み合わせがラットの疲労に及ぼす影響	第9回日本黒酢研究会
池寄寛人	脳卒中患者支援に関する展望と課題ー言語聴覚士の立場からー	第26回地域完結型の治療とリハビリテーションを考える会, 第46回熊本脳卒中地域連携ネットワーク研究会
松尾朗	心理アセスメントから考える通常学級在籍児の学習支援	熊本K-ABC研究会事例検討会
佐々木千穂	機器導入支援の情報整理の視点-事例を通して-	難病コミュニケーション支援研修会

令和6年度決算報告

学校法人銀杏学園の令和6年度決算は、令和7年5月28日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表を掲載し報告いたします。

①事業活動収支計算書

令和6年度の経常収支差額は+134百万円と収支均衡を達成しており、**前年比131百万円の増加**でした。これは収入面で**学生生徒等納付金が68百万円、経常費等補助金が71百万円、それぞれ前年比増加**したこと等が原因です。

②資金収支計算書

令和6年度の翌年度繰越支払資金は2,562百万円となり、**前年比553百万円の増加**でした。**経常収支差額が増加**したことや、有価証券の**運用規模を前年比100百万円縮小**したこと等が原因です。

事業活動収支計算書要約（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円）

科目					科目			
		令和6年度決算	令和5年度決算	増減			令和6年度決算	令和5年度決算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,180,221	2,112,245	67,976	特別収支	資産売却差額	25,000
		手数料	35,710	34,006	1,704		その他の特別収入	9,724
		寄付金	27,790	32,825	△ 5,035		特別収入計	34,724
		経常費等補助金	465,529	394,259	71,270		資産処分差額	641
		付随事業収入	41,835	66,536	△ 24,701		その他の特別支出	0
		雑収入	48,264	49,076	△ 812		特別支出計	641
	事業活動支出の部	教育活動収入計	2,799,349	2,688,947	110,402		特別収支差額	34,083
		人件費	1,500,192	1,423,024	77,168		（予備費）	
		教育研究経費	1,091,568	1,153,498	△ 61,930		基本金組入前当年度収支差額	168,103
		管理経費	181,632	203,655	△ 22,023		基本金組入額合計	△ 94,192
		徴収不能額等	0	0	0		当年度収支差額	73,911
		教育活動支出計	2,773,392	2,780,177	△ 6,785		前年度繰越収支差額	△ 2,976,425
教育活動外収支	収入の部	教育活動収支差額	25,957	△ 91,230	117,187	(参考)	基本金取崩額	0
		受取利息・配当金	108,063	93,918	14,145		翌年度繰越収支差額	△ 2,902,514
		その他の教育活動外収入	0	0	0			△ 2,976,425
		教育活動外収入計	108,063	93,918	14,145		事業活動収入計	2,942,136
	支出の部	借入金等利息	0	0	0		事業活動支出計	2,774,033
		その他の教育活動外支出	0	0	0			2,790,366
		教育活動外支出計	0	0	0			2,780,745
		教育活動外収支差額	108,063	93,918	14,145			△ 151,770
			経常収支差額	134,020	2,688			△ 6,712

資金収支計算書要約（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和6年度決算	令和5年度決算	増減	科目	令和6年度決算	令和5年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,180,221	2,112,245	67,976	人件費支出	1,482,811	1,409,816	72,995
手数料収入	35,710	34,006	1,704	教育研究経費支出	691,920	758,817	△ 66,897
寄付金収入	27,790	32,793	△ 5,003	管理経費支出	145,096	167,974	△ 22,878
補助金収入	465,529	394,259	71,270	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	525,000	102,750	422,250	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	41,835	66,536	△ 24,701	施設関係支出	67,232	12,901	54,331
受取利息・配当金収入	108,063	93,918	14,145	設備関係支出	75,476	100,511	△ 25,035
雑収入	48,264	49,076	△ 812	資産運用支出	400,000	0	400,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	199,064	298,751	△ 99,687
前受金収入	414,294	383,403	30,891				
その他の収入	53,596	96,552	△ 42,956				
資金収入調整勘定	△ 421,166	△ 425,479	4,313	資金支出調整勘定	△ 135,419	△ 180,214	44,795
前年度繰越支払資金	2,009,389	1,637,886	371,503	翌年度繰越支払資金	2,562,345	2,009,389	552,956
収入の部合計	5,488,525	4,577,945	910,580	支出の部合計	5,488,525	4,577,945	910,580

貸借対照表要約（令和7年3月31日現在）

（単位：千円）

資産の部				負債の部				純資産の部			
科目	令和6年度末	令和5年度末	増減	科目	令和6年度末	令和5年度末	増減	科目	令和6年度末	令和5年度末	増減
固定資産	8,400,435	8,784,828	△ 384,393	固定負債	258,013	240,632	17,381	基本金	13,046,364	12,952,172	94,192
有形固定資産	6,120,402	6,400,504	△ 280,102	預り保証金	150	150	0	第1号基本金	12,873,364	12,779,172	94,192
土地	1,504,743	1,504,743	0	退職給与引当金	257,863	240,482	17,381	第4号基本金	173,000	173,000	0
建物	3,545,630	3,779,515	△ 233,885	流動負債	620,362	631,192	△ 10,830	繰越収支差額	△ 2,902,514	△ 2,976,426	73,912
その他の有形固定資産	1,070,029	1,116,246	△ 46,217	未払金	132,565	177,382	△ 44,817	翌年度繰越収支差額	△ 2,902,514	△ 2,976,426	73,912
特定資産	170,000	170,000	0	前受金	414,294	383,403	30,891	純資産の部合計	10,143,850	9,975,746	168,104
その他の固定資産	2,110,033	2,214,324	△ 104,291	預り金	73,503	70,407	3,096	負債及び純資産の部合計	11,022,225	10,847,570	174,655
流動資産	2,621,790	2,062,742	559,048	負債の部合計	878,375	871,824	6,551				
現金預金	2,562,345	2,009,389	552,956								
その他の流動資産	59,445	53,353	6,092								
資産の部合計	11,022,225	10,847,570	174,655								

令和7年度予算報告

学校法人銀杏学園の令和7年度予算は、令和7年5月28日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支予算書、資金収支予算書を掲載し報告いたします。

①事業活動収支予算書

令和7年度の経常収支差額は±0百万円と収支均衡が保たれていますが**前年比134百万円減少**します。また、特別収支差額は△100百万円の支出超過となっていますが、これは賞与引当に関する学校会計基準の変更により令和7年度の全学校法人の計算書において同様に表れるもので、問題ありません。

②資金収支予算書

令和7年度の翌年度繰越支払資金は 2,000 百万円となり、**前年比 562 百万円減少**します。これは**有価証券投資の拡大**を計画していることが影響しています。

事業活動収支予算書要約（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位：千円）

科目					科目									
令和7年度予算					令和6年度決算									
増減					増減									
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,302,000	2,180,221	121,779	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	25,000	△ 25,000			
		手数料	35,000	35,710	△ 710			その他の特別収入	0	9,724	△ 9,724			
		寄付金	28,000	27,790	210			特別収入計	0	34,724	△ 34,724			
		経常費等補助金	446,000	465,529	△ 19,529			資産処分差額	0	641	△ 641			
		付随事業収入	33,000	41,835	△ 8,835		その他の特別支出	100,000	0	100,000				
		雑収入	42,000	48,264	△ 6,264		特別支出計	100,000	641	99,359				
		教育活動収入計	2,886,000	2,799,349	86,651		特別収支差額	△ 100,000	34,083	△ 134,083				
		事業活動支出の部	人件費	1,571,790	1,500,192		71,598	〔予備費〕					30,000	
	教育研究経費		1,155,659	1,091,568	64,091	基本金組入前当年度収支差額					△ 130,000	168,103	△ 298,103	
	管理経費		258,551	181,632	76,919	基本金組入額合計					△ 226,683	△ 94,192	△ 132,491	
	徴収不能額等		0	0	0	当年度収支差額					△ 356,683	73,911	△ 430,594	
	教育活動支出計		2,986,000	2,773,392	212,608	前年度繰越収支差額					△ 2,902,514	△ 2,976,425	73,911	
	教育活動収支差額		△ 100,000	25,957	△ 125,957	基本金取崩額					0	0	0	
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	100,000	108,063	△ 8,063	翌年度繰越収支差額					△ 3,259,197	△ 2,902,514	△ 356,683
			その他の教育活動外収入	0	0	0	(参考)							
教育活動外収入計			100,000	108,063	△ 8,063	事業活動収入計		2,986,000	2,942,136	43,864				
支出の部		借入金等利息	0	0	0	事業活動支出計		3,116,000	2,774,033	341,967				
		その他の教育活動外支出	0	0	0									
		教育活動外支出計	0	0	0									
		教育活動外収支差額	100,000	108,063	△ 8,063									
経常収支差額		0	134,020	△ 134,020										

資金収支予算書要約（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和7年度予算	令和6年度決算	増減	科目	令和7年度予算	令和6年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,302,000	2,180,221	121,779	人件費支出	1,556,790	1,482,811	73,979
手数料収入	35,000	35,710	△ 710	教育研究経費支出	769,659	691,920	77,739
寄付金収入	28,000	27,790	210	管理経費支出	223,551	145,096	78,455
補助金収入	446,000	465,529	△ 19,529	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	525,000	△ 525,000	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	33,000	41,835	△ 8,835	施設関係支出	48,700	67,232	△ 18,532
受取利息・配当金収入	100,000	108,063	△ 8,063	設備関係支出	177,983	75,476	102,507
雑収入	42,000	48,264	△ 6,264	資産運用支出	730,000	400,000	330,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	132,775	199,064	△ 66,289
前受金収入	414,294	414,294	0				
その他の収入	37,763	53,596	△ 15,833	〔予備費〕	30,000		30,000
資金収入調整勘定	△ 450,402	△ 421,166	△ 29,236	資金支出調整勘定	△ 119,458	△ 135,419	15,961
前年度繰越支払資金	2,562,345	2,009,389	552,956	翌年度繰越支払資金	2,000,000	2,562,345	△ 562,345
収入の部合計	5,550,000	5,488,525	61,475	支出の部合計	5,550,000	5,488,525	61,475

令和6年度事業報告

目次

I 法人の概要

- 1 基本情報
- 2 建学の精神、基本理念、ミッション及びタグライン
- 3 沿革
- 4 設置する学校・学部・学科等
- 5 学生数の状況
- 6 収容定員充足率
- 7 役員の概要
- 8 評議員の概要
- 9 教職員の概要
- 10 卒業生の概要

II 事業の概要

- 1 主な事業の内容
 - (1) 全体概要
 - (2) 教育に関すること
 - (3) 研究に関すること
 - (4) 経営に関すること
- 2 学生の動向
 - (1) 入学試験における志願等の状況
 - (2) 国家試験の合格状況
 - (3) 卒業生の進路状況

III 財務の概要

- 1 事業活動収支計算書(過去5年分)
- 2 貸借対照表(過去5年分)
- 3 財務比率(過去5年分)

II 事業の概要

1 主な事業の内容

(1) 全体概要

2024(令和6)年度は、2019~2030年度までを見据えた12年間の中長期計画の折り返しを迎える時期となりました。第II期中期計画(2023年度から4年間)の初期に立ち上げた20のワーキングまたはプロジェクトについて、いずれも所期の目標を概ね達成しており、計画が着実に実行されています。特に、広報プロジェクトによる戦略的な広報活動や入試制度の戦略的な改善による入学者確保に向けた取組みは、18歳人口が減少している中において入学定員の120%超の学生を確保するなど、顕著な成果を上げています。

また、私立大学等経常費補助金に係る新たに創設された「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援(キラリと光る教育力)」に選定されました。この中で取り組むこととしている組織の再編のうち、公衆衛生看護学専攻科の開設については8月付けで文部科学省から許可され、リハビリテーション学科で申請していた日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの養成校としての指定も3月付けで得ることができました。認定看護師教育課程については、福岡脳神経外科病院との協定に基づく福岡キャンパスの稼働により、脳卒中看護分野と認知症看護分野の同時開講を実現することができました。

高大連携の面では、熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)との協定に基づき、鹿本高校及び熊本西高校の生徒に対して合計3件の研究支援(看護学科2件、共通教育センター1件)を行い、3年連続して実績を積み重ねることができました。また、9月には北里柴三郎顕彰事業の一環として北里柴三郎記念研究セミナーを本学で開催し、KSCに加盟する5つの高校の生徒たちが、日頃の研究の成果を発表しました。

(2) 教育に関すること

1) アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)に適合した入学者確保

(目標1) 学科・専攻ごとの目標入学者数の確保(達成率100%)

(目標2) 各学科・専攻における志願者数の増加(総志願者数1,300人)

- 医学検査学科では目標数120名/入学者数121名(達成率101%)、看護学科では目標数120名/入学者数138名(達成率115%)であり、いずれも目標を達成した。リハビリテーション学科では目標数168名/入学者数158名(達成率94%)であった。学部全体では目標数408名(定員の120%)に対し417名(同123%)であった。【目標1達成率100%】
- 志願者数は医学検査学科、看護学科、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻においては増加したが、リハビリテーション学科理学療法学専攻及び作業療法学専攻では減少した。学部の総志願者数は1,033名で前年度比105.3%と増加したが、目標人数(1,300名)には達しなかった。なお、18歳人口が減少している中において、次年度の目標人数を今年度実績よりも6%増の1,100名と設定している。【目標2達成率80%】
- 志願者数は、熊本県の18歳人口が底の年であった前年に比して、わずかながら増加に転じた。入試区分別でみると、学校推薦型選抜(指定校)が前年比183%と増加したことや、大学入学共通テスト利用選抜(前期)の志願者が前年比115%と増加したことが志願者増の理由としてあげられる。しかし、他の入試区分では、志願者は総じて減少しており、厳しい環境の中にあることは続いている。継続して、効果的な広報とともに特色・魅力のある教育内容により他大学との差別化を図っていく必要がある。

2) 質の高い医療技術者の養成

(目標1) 適切な学外実習先の確保と連携強化による実習教育の充実

(目標2) 各種連携事業を活用した実習等による実践力強化

(目標3) プラスアルファの資格・技能などによる他校との差別化

- 適切な実習先の確保と連絡・調整を密にすることにより実習教育の質を担保した。【目標1達成率100%】
- リハビリテーション学科を中心に、水上村、阿蘇市、天草市、熊本ビューストビンディーズ、鶴屋百貨店などで実施した。【目標2達成率100%】
- 医学検査学科では心電図検定など延べ65名が資格取得した。特に本年度は、1名が最難関の心電図検定1級に合格した。看護学科では、学部学生全員が学外で地域の住民を対象に「健康教育」を実施するなど保健指導や健康教育に関する知識や技術を高めることに取り組んだ。また、リハビリテーション学科では、日本トレーニング指導者協会(JATI)及び日本スポーツ協会(JSPO)認定のアスレティックトレーナーの資格取得に向けた指導を開始するなど行った。【目標3達成率100%】

3) 学生の主体的学びにつながる支援体制の強化

(目標1) スモールグループ担任のサポート内容の平準化(基準の策定)

(目標2) 高水準の進級率と規定年数内卒業率の維持(規定年数内卒業率88%以上)

- スモールグループ検討ワーキンググループによって「担任の手引き」を改定し、学生支援の基準をより明確にした。改定版は3月に専任教員全員にメール配信した。また、夏のFD研修で医学検査学科を対象としたSG制度に関する話し合いを持ち、結果をもとに3・4年次のSGグループ編成方法について学科に提言を行うなどし、医学検査学科内で編成方法について検討がなされた。また、SG担任によるポートフォリオ面談については、面談の時期となっている4月及び10月に全学的に周知し、全学的に取り組みを行っている。【目標1達成率100%】
- 令和7年3月卒業の学生の規定年数内卒業率は、医学検査学科83.8%、看護学科87.6%、リハビリテーション学科理学療法学専攻77.3%、同生活機能療法学専攻87.5%、同言語聴覚学専攻88.1%であり、学部全体では85.1%であった(目標値88%に対して97%の達成)。全国平均は82.5%であり全国平均は上回っているが、年々わずかながら低下している傾向にある。特に理学療法学専攻においては前年比89.2%に低下しており、3年次から4年次への進級率が低下していた。全学的には、2年次から3年次への進級率が低くなっており、継続した課題として取り組む必要がある。

理学療法専攻を中心に、すべての学科・専攻で留年・退学者の実態について要因分析を行い、改善に繋げていく。【目標2達成率97%】

4) 高水準の国試合格率と就職率の堅持

【目標1】90%以上かつ4年制大学新卒平均を上回る国試合格率の達成

【目標2】就職率100%の堅持

- 国家試験の合格率は、理学療法士、保健師、助産師の合格率は100%であった。臨床検査技師95.2%、看護師99.0%、作業療法士97.1、言語聴覚士97.4%であり、すべての資格で4年制大学新卒平均を上回り、目標を上回った。【目標1達成率100%】
- 3月31日現在の進路決定率(就職+進学)は、医学検査学科95.1%、看護学科97.9%、リハビリテーション学科理学療法専攻100%、同生活機能療法学専攻97.0%、同言語聴覚学専攻97.5%であり、全体では97.1%であった。卒業年度内での就職率100%には達しなかったが、卒業後も引き続き支援を続け100%に近づける予定である。卒業年度内の就職率をもとに達成率を算出しており、今後も早期の就職活動支援をさらに進め、年度内就職率100%を目指していく。【目標2達成率97%】

(3) 研究に関すること

1) 不正使用防止計画推進室と連携した適正な研究活動の推進のための体制整備

【目標1】監査体制の強化(令和6年度中)

【目標2】現行の研究費取扱い手引きの見直し及びその内容の周知徹底(令和6年度中)

- 「不正使用防止計画推進室」の活動内容を見直し、実効性のある取り組みを行なった。具体的には、①PDCAサイクルをうまく回す仕組みを取り入れ、②不正使用防止計画の大幅な見直しを行い、③研究者用の自己点検チェックリスト及びそのポイントを作成・配付した。また、内部監査室の本格的活動(啓発活動への参加や科研費監査の強化、PDCAサイクルの評価など)によって、監視体制の強化をはかることができた。【目標1達成率100%】
- 従来の「研究費取扱い手引き」の内容を全面的に見直し、研究費の取扱いだけでなく、本学で研究を行うにあたって必要な支援情報や注意点を網羅した研究支援マニュアル「研究活動の手引き」を作成した。その中で、特に周知すべき内容は「研究倫理・不正防止に関する研修会及び研究費の適正使用に関する研修会」で説明を行った(受講率100%)。【目標2達成率100%】

2) 学内共同研究の推進

【目標1】再構築した学内研究費制度に基づく学内共同研究の活性化(令和6年度中)

- 学内研究費(P&P)の学内共同研究を支援するための研究種目であるAタイプは、継続課題1件、今年度の審査では1件採択され、共同研究の輪が広がった。【目標達成率100%】

3) 研究者(特に若手)の人材育成推進と研究環境の整備

【目標1】研究費獲得や研究の進め方に関するコンサルテーション制度の積極的運用

【目標2】研究者へのアンケートを通じたニーズの把握と対策の構築(令和6年度中)

- 今年度は初めて研究費獲得支援サービスを提供する企業と契約し、i)研究計画調査(申請書)の添削、ii)科研費セミナーを2回、iii)科研費応募のためのハンドブック作成、iv)研究者からの個別相談などのサービスを受けた。教員からは好評であり、申請書の添削希望者は契約数を上回る20件であった(採択6件/20件中)。【間接経費の有効活用】【目標1達成率100%】
- 「研究倫理・不正防止に関する研修会及び研究費の適正使用に関する研修会」において、受講した教職員に対して研究費に関するアンケートを実施し、ニーズの把握や対応について検討を加えた。その結果、今年度は経費執行時の自己点検チェックリストを作成して研修会等で周知をした。
- 「研究に関するアンケート2023」で要望が挙げられていたWi-Fi設置については、IR・情報システム室と連携して検討を行い、2・3号館の教員室や研究スペース等の研究で必要な場所に設置した。【間接経費の有効活用】【目標2達成率100%】

(4) 経営に関すること

1) 財務基盤の強化

【目標】既存支出の見直し(収支管理の適切な可視化)

経営に関しては、第Ⅱ期中期計画の期間中に達成すべき目標に対する2年目までの達成率を示している。

- 学内での常勤理事会において、四半期毎に予実管理を実施する仕組みづくりを行った。具体的には経理課よりその時点での昨年度と対比した実績一覧を作成し、現状把握に努めた。達成率を100%にするために、今後は実施内容/取扱いデータをさらにブラッシュアップしていく。【目標達成率80%】
- 経常収支の将来推計を試算し、財務基盤の強化の一環として、令和8年度入学生から学納金の値上げを行う。既存支出の見直しとして学外実習の際の旅費交通費の大学負担について、競合校同様に学生負担に切り替えることも検討を進めたが、今回の学納金の値上げに包含することとし、逆に大学負担であることを本学の強みとして広報していくことにより、令和8年度入学生の確保に繋げる。【目標達成率90%】

2) 管理運営・ガバナンスの強化

【目標】私学法改正に沿った理事会・評議員会の機関設計や内部統制システムの整備等(対計画進捗率100%)

- 私立学校法改正に沿って、以下を計画どおり実施した。

①「理事会・評議員会の機関設計/寄附行為の変更等」

②文部科学省令の内容に沿った「内部統制システム」の整備

期限であった令和7年3月31日までにすべての整備を終了することができた。今後は整備した内部統制システムの運営に注力していく。

【目標達成率100%】

3) 教職員組織の充実

【目標】更なる充実した研修制度の構築/評価制度見直し等のモチベーション向上策など(対計画進捗率100%)

- 「研修制度構築」については、実施方針と体系図の整備が完了した。FD委員会との連携により、令和7年度より順次、計画実行する。「評価制度の見直し」は、現時点で着手できていないので、現状の課題の洗い出しから行い、令和9年3月までに制度改善やモチベーション向上につながる表彰制度の創設等を実現する。【目標達成率50%】

4) 健康寿命延伸など地域の課題に対する産官学連携による先導した取り組みの推進など

【目標1】行政・企業・財団・医療機関との連携強化

- 多くの行政や民間施設と連携を推進しているが、一例として、水俣市における地域課題の1つである、医療従事者の確保を目的として水俣市/水俣市立総合医療センターと連携し水俣高校生徒へ医療職紹介のガイダンスを実施した。また、総合的な探究の時間では保健医療系のテーマについて、本学教員が現地又はZoom等で指導するなど生徒達の医療系職種への掘り起こしを行うとともに、水俣市立総合医療センターも本学進学者向けの奨学金制度を設けるなど課題解決に向けて仕組化を進めている。第二期中期計画期間中に、水俣市立総合医療センターの奨学金制度を活用した生徒の受入れを目指す。
- 阿蘇市においては、阿蘇中央高校の生徒と本学学生とで高齢者の健康寿命の延伸を目的としたプロジェクトを実施しており、具体的には体力測定を通してデータ解析を行い、それを基にアドバイスを発行して生活習慣を改善していく活動を行っている。【目標1達成率80%】

【目標2】小・中・高校との連携強化

- 小・中学生を対象とした「からだのふしぎ探検」を7月に開催し想定を上回る300名近くの参加者(同伴者込み)があった。進路選択の早期化を意識して、早い段階からの保健医療職への興味付けを実施できるよう工夫していき、参加者の本学への進学へと繋げていく。
- SSH(スーパーサイエンスハイスクール)高校を中心としたKSC(熊本サイエンスコンソーシアム)高校の8校を対象にNEXT北里柴三郎をスローガンとして研究記念セミナーを9月に開催し、北里英郎先生の講演や高校生の研究発表などを実施した。KSCとの協定に基づく研究支援の実績をさらに進め、支援を行った生徒が本学への進学を目指しやすい制度等も構築していく。

【目標2達成率70%】

【目標3】令和7年度からの保健師専攻科の設置準備(対計画進捗率100%)

- 令和7年度からの保健師専攻科(公衆衛生看護学専攻科)の設置は予定どおり完了し、入学定員も無事に満たしている。【目標3達成率100%】

令和7年度事業計画

学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 令和7年度の重点的な取組み

教 育

【令和7年度の重点的な取組みとその達成目標】

- 質の高い医療技術者の養成【目標1】
 - ⇒適切な学外実習先の確保と連携強化による実習教育の充実
 - ⇒開設初年度である公衆衛生看護学専攻科の教育の充実（自治体との連携強化など）
 - ⇒プラスアルファの資格・技能などによる他校との差別化
- 学生支援体制の強化【目標3】
 - ⇒高水準の進級率と規定年数内卒業率の維持（規定年数内卒業率88%以上）
- アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）に適合した入学者確保【目標5】
 - ⇒学科・専攻ごとの目標入学者数の確保（達成率100%）
 - ⇒各学科・専攻における適性の高い志願者数の確保（総志願者数1,100人）
- 高水準の国試合格率と就職率の堅持、進学者の支援【目標6】
 - ⇒90%以上かつ4年制大学新卒平均を上回る国試合格率の達成
 - ⇒就職率100%の堅持 ⇒進学支援の充実（進学者25人）

【中期計画の期間目標】★印は、中期計画の期間目標のうち令和7年度の重点項目

- ★1) 近未来を想定したリーディング大学に相應しい教育内容の充実
- 2) 社会の要請に応える教育の質保証
- ★3) 主体性を尊重した学生支援
- 4) 効果的・効率的な教育の実施体制と環境整備
- ★5) 優秀で意欲ある入学生の確保に向けた入試制度等の再構築
- ★6) 高水準の国試合格率と就職率の堅持

研 究

【令和7年度の重点的な取組みとその達成目標】

- 学内研究のさらなる推進【目標1】
 - ⇒中期計画の学科専攻による研究推進計画について進捗状況の確認（令和7年度中）
 - ⇒進行中（P&P、Aタイプ）あるいは計画中の学内共同研究のニーズ把握と支援強化（令和7年度中）
- 研究者（特に若手）の人材育成推進と研究環境の整備【目標3】
 - ⇒研究費獲得のための外部支援サービス（ジーラント㈱）の継続利用と効果検証
 - ⇒研究者へのアンケートを通じたニーズの把握と対策の構築（令和7年度中）
- 公正な研究活動を推進するための再構築と啓発活動の強化【目標4】
 - ⇒現行の「不正使用防止計画推進室」を廃止し、これに代わる組織として「公正な研究推進支援室（仮称）」を新設（令和7年度中）
 - ⇒「研究活動の手引き」（ハンドブック版作成予定）や研究費不正防止チェックリストの普及と活用促進（令和7年度中）

【中期計画の期間目標】★印は、中期計画の期間目標のうち令和7年度の重点項目

- ★1) 本学の特徴を活かした学内研究の推進
- ★3) 学内研究支援体制の整備
- 5) 研究活動を通じた社会貢献の推進
- 2) 学外研究機関等との共同研究の推進
- ★4) 責任ある研究活動の推進

経 営

【令和7年度の重点的な取組みとその達成目標】

- 財務基盤の強化【目標1】
 - ⇒長期的な経常収支管理を念頭においた既存支出の見直し
 - ⇒メリハリを付けた重点的投資（DX推進等）
- 管理運営・ガバナンスの強化【目標2】
 - ⇒私学法改正の改正に関連したガバナンス体制の推進
- 教職員組織の充実【目標3】
 - ⇒更なる充実した研修制度の構築
 - ⇒評価制度見直し等のモチベーション向上策など
- 健康寿命延伸など地域の課題に対する産官学連携による先導した取り組みの推進など【目標5】
 - ⇒行政・企業との連携強化
 - ⇒キャリア教育及びリカレント教育の充実

【中期計画の期間目標】★印は、中期計画の期間目標のうち令和7年度の重点項目

- ★1) 財務基盤の強化
- ★3) 教職員組織の充実
- ★5) 地域の保健（健康長寿）を先導する社会活動の推進
- ★2) 管理運営・ガバナンスの強化
- 4) 戦略的な広報活動の展開



看護学科4年

柏木 美咲さん

語学力に強い劣等感を抱いていたなかでの、アメリカへの留学でした。不安とは裏腹に、毎日が新鮮で楽しく、充実した1か月間でした。現地では、ホームステイと語学学校への通学を経験し、英語力を確実に向上できることはもちろん、アメリカの文化について体験できました。また、語学学校では様々な国籍の留学生と友達になり、多国籍の文化に触れることができ、多様性への理解も深まりました。今回の留学で、語学力の向上・異文化理解に加えて、自身の主体性や行動力も高めることができ、自己成長に大きく繋がったと感じています。今後も留学から得た学びや経験を、様々なことに生かしていきます。



Library

図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/>

○2024年度末蔵書数

図書8万3千冊、電子ブック1千冊、雑誌979誌、電子ジャーナル1,719誌、映像データベース2種、その他データベース6種ほか。利用状況に合わせた電子リソースの契約を行い、冊子体とともにハイブリット図書館として、教育・研究・学修のための学術情報資源の充実を図っています。

○電子ブックの利用状況

2024年度の貸出冊数2,377冊と、2023年度より1.2倍増となりました。当館では、Maruzen eBook Library、Kinoden等の電子ブックを導入しています。スマホやパソコンから利用でき、実習や自己学習に活用されています。今後も利用状況と利用者のリクエストに応じ、DX推進の一つとして、電子リソースの拡充を目指します。

○卒業生利用サービスの拡大!

これまでの利用サービスに加え、自己研鑽やキャリアアップの応援として、キャリアアップコーナーの充実及び入退館システムや自動貸出機に対応した利用証の発行を始めました。ご来館時には免許証等の身分証明書又は在学時の学生証をご持参いただき、必要な登録手続きを行います。詳細は、図書館までお尋ねください。



図書館蔵書の中から



— 熊本保健科学大学学術情報リポジトリのご紹介 —

熊本保健科学大学学術情報リポジトリでは、本学の教育・研究活動において作成された学術成果を電子的な形態により蓄積・保存し、学内外へ無償公開しています。本学が年1回刊行している『熊本保健科学大学研究誌』は、創刊号から最新号(第22号2025年3月)までご覧いただけます。その他、ブックレットや図書館報なども掲載しています。

熊本保健科学大学学術情報リポジトリは本学図書館ホームページ、または、こちらのURLからご利用ください。
<https://khsu.repo.nii.ac.jp/>



基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

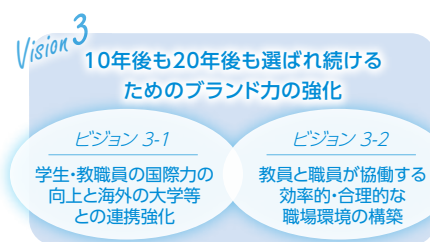
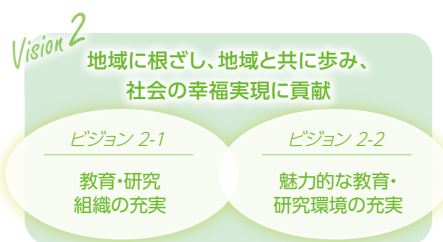
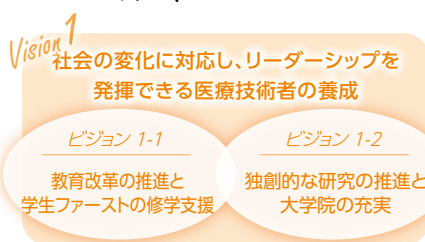
1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富み、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

— 将来ビジョン —

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる



編集後記

研究者としての先生方は、時には研究分野の垣根を越えて他分野の先生と上手にコラボレーションしつつ、創意工夫を凝らした研究をされています。日頃先生方とお話しさせていただくと、元気をもらえる気がします。

令和8年度 熊本保健科学大学 入試概要

■ 募集人員

学 部	学 科 / 専 攻	募集人員	合 計
保健科学部	医学検査学科	100名	340名
	看護学科	100名	
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	
		作業療法学専攻	
		言語聴覚学専攻	
		40名	

■ 入試区分別募集人員 (保健科学部)

入試区分	総合選抜型		学校推薦型選抜			一般選抜			合計
	リーダーシップ型	社会人	指定校	公募	離島枠	一般	共通テスト利用・前期	共通テスト利用・後期	
医学検査学科	10名		25名	25名	若干名	35名	5名	若干名	100名
看護学科	10名		25名	25名	若干名	35名	5名	若干名	100名
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	9名	若干名	15名	15名	若干名	17名	4名	若干名	60名
リハビリテーション学科 作業療法学専攻	6名	若干名	10名	10名	若干名	11名	3名	若干名	40名
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻	6名	若干名	10名	10名	若干名	11名	3名	若干名	40名
合 計	41名	若干名	85名	85名	若干名	109名	20名	若干名	340名

■ 入学試験日程一覧 (保健科学部)

入試区分	出 願 期 間	試験日	合格発表	入 学 手 続
総合型選抜	リーダーシップ型 〈エントリー期間〉 令和7年9月1日(月)～9月8日(月) 〈出願期間〉 令和7年9月24日(水)～10月1日(水)		9月17日(水)	
	社会人	令和7年10月 1日(水) ～10月10日(金)	11月 1日(土)	令和7年11月 4日(火) ～11月18日(火)
選 学 校 推 薦 型	指定校	令和7年11月 4日(火) ～11月13日(木)	11月22日(土)	令和7年12月 4日(木) ～12月18日(木)
	公 募			
	離島枠	令和7年11月1日(土)～11月10日(月)		
一 般 選 抜	一 般	令和8年 1月 5日(月) ～1月26日(月)	2月4日(水)	令和8年 2月18日(水) ～2月25日(水)
	共通テスト利用・前期			
	共通テスト利用・後期	令和8年 2月18日(水) ～2月26日(木)	3月6日(金)	令和8年 3月13日(金) ～3月18日(金)

入試に関するお問い合わせ

熊本保健科学大学 入試・広報課 TEL.096-275-2215 (直通)

〒861-5598 熊本市北区和泉町 325

E-mail: nyushi@kumamoto-hsu.ac.jp <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp>

■ 入学試験日程一覧 (大学院・専攻科・別科・キャリア教育研修センター)

大学院入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和7年 10月14日(火) ～10月24日(金)	11月1日(土)	11月14日(金)	10名
出願資格審査	令和7年9月29日(月)～10月8日(水)			
社会人選抜 (Ⅰ期)	令和7年 10月14日(火) ～10月24日(金)	11月1日(土)	11月14日(金)	
出願資格審査	令和8年1月19日(月)～1月28日(水)			
一般選抜	令和8年 2月2日(月) ～2月10日(火)	2月21日(土)	2月27日(金)	
出願資格審査	令和8年1月19日(月)～1月28日(水)			
社会人選抜 (Ⅱ期)	令和8年 2月2日(月) ～2月10日(火)	2月21日(土)	2月27日(金)	

助産別科入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和7年 10月14日(火) ～10月24日(金)	11月1日(土)	11月11日(火)	10名
一般選抜	令和7年 11月11日(火) ～11月21日(金)	12月6日(土)	12月16日(火)	10名

キャリア教育研修センター 入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
認定看護師教育課程 (認知症看護分野) (脳卒中看護分野)	令和7年 11月17日(月) ～12月10日(水)	令和8年 1月10日(土)	1月20日(火)	(認知症) 12名 (脳卒中) 6名
特定行為研修課程	令和7年 11月17日(月) ～12月10日(水)	令和8年 1月10日(土)	1月20日(火)	2名

「熊保大夢基金」 お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」への寄付をお願いしております。令和6年度後期におきましても15件2,434万円の御寄付を頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名(令和6年度後期分、掲載御許可を頂いた方のみ、五十音順)

(医)愛育会福田病院様 赤池紀生様 兼武加恵子様 (一財)化血研様 銀杏短大2期生同窓会様 相良勝郎様 崎元達郎様 (医)寿量会機能病院様 杉光定則様 守旦孝様

頂いた御寄付は、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実へ活用させていただきます。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

御寄付の申込方法は「インターネットによる方法」と「書面による方法」の2つがあります。詳細につきましては公式WEBサイト<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/about/donation.html>を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。



オープンキャンパス

お申込みはこちらから



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。

お詫び：ぎんきょう51号の特集「地域とともに」内「からだのふしぎ探検」紹介文で、学内に設けられたエリアは、キャンパスエリアと記載されていますが、正しくは解剖、看護・助産、アカデミックスキル支援センターエリアです。読者、関係者の皆様にはご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正させていただきます。